

同窓会報



- ① ライトアップされた飛鳥乃湯泉
- ② 正門のオブジェ
- ③ 工学部棟前、秋を感じる景色
- ④ 新しくなった赤十字病院
- ⑤ もうすぐ2限が始まる
- ⑥ 青空とポンジュー工場



愛媛大学文理学部人文学科及び法文学部同窓会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.090-1002-6376

E-mail:support@ehime-u-houbun-dousoukai.com [HP] <https://ehime-u-houbun-dousoukai.com>



関西・広島・四国支部総会のお知らせ

関西支部（にきたつ会）

日 時：2023年11月12日（日）
11:00～
場 所：ブリーゼプラザ
（大阪市北区梅田2-4-9）
会 費：5,000円

広島支部

日 時：2023年11月18日（土）
13:00～
場 所：広島ガーデンパレス
（広島市東区光町1-15-21）
会 費：5,000円

四国支部

日 時：2023年10月21日（土）
13:00～
場 所：道後山の手ホテル
（松山市道後鷺谷町1-13）
会 費：5,000円

※参加を希望される方は、会報に同封のアンケートハガキにチェックを入れて四国支部9月29日（金）、
関西支部10月20日（金）、広島支部10月27日（金）までにご投函ください。

同窓会へ寄付をお願いいたします

2023年3月31日現在 1,505,500円 総数320名

2022年度もたくさんのご寄付をいただき、ありがとうございました。有効に使わせていただきます。

※18・19ページに寄付者一覧と応援メッセージを掲載しています。

「ふるさと応援制度」を4年前から導入しました。「〇〇支部へ寄付」と記載された方の寄付額の半分の指定された支部に交付しました。

引き続きこの制度を活用して、支部活動への支援をお願いします。本部でも、寄付や本部会計の中から支部活動を支援しております。

また、法文学部学生支援のため、愛媛大学基金を通じて100万円を寄付しました。法文学部生の海外派遣に役立てられています（5P「青い地球交流記」をご覧ください）。

プレゼント

2022年度は、寄付をいただいた方に「ぶんぼースマ立てペン」をプレゼントいたしましたが、2023年度は「ぶんぼーハンドタオル」（今治タオル）をプレゼントいたします。



同窓会報の郵送停止をご希望される方は、アンケートハガキの ☐ にチェックを入れてご返送ください。

同窓会報は同窓会ホームページでもご覧いただけます（アドレスは表紙にあります）。

スマートフォンをお持ちの方は、同窓会LINEアカウントにご登録ください（3ページにQRコードがあります）。

目次



愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

法文学部同窓会報
第27号

支部総会案内/寄付（返礼品）	2
学生アンバサダー始動/ 俳句募集・結果発表/LINE登録	3
卒業式/入学式	4
青い地球交流記	5
支部だより	6
新三役あいさつ（2）	8
理事会報告	9
俳句投句 選句結果発表&講評	10
人事異動	11
研究レポート	12
退職された教員	15
卒業生から	16
寄付者御芳名一覧	18
応援メッセージ/Q&A	19

愛大今昔 Vol.3	20
提供講座『社会と人間』報告	22
講師の方に感想をお聞きました！	23
寄稿文/愛媛大学校友会	24
サークル紹介/落語研究会解散	25
学生アンバサダーのページ	26
研究室紹介（社会科学・太田先生）	28
（人文学・山本先生）	29
Career Report/放送大学	30
パズル/感想/編集後記	32

題字：柴田 祐昭

（文理学部人文学科史学専攻・第8回卒）

〔明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・

県展審査員・毎日書道展審査会員〕

学生アンバサダー 始動！

2023年4月、学生アンバサダーが活動をスタートさせました。

コロナ禍でなかなか実現できませんでしたが、同窓会提供講座の最終回に畠中副会長が募集を告知して5名が応募。いよいよ松本会長の長年の構想が実りました。

会報編集委員会への参加を皮切りに、理事会・支部総会への出席、寄付返礼品の選定、LINEアカウントの運営（取材）など、若さを武器に同窓会活動に新風を吹き込んでくれています。将来は同窓会員として本部・支部活動に活躍してくれるものと期待しています。

26～27ページに学生アンバサダーの自己紹介とインタビュー記事を掲載しています。



「俳句コーナー」第2回投句 結果発表!!

合計52名、総数114句の投句がありました。前回より投句者が倍増しており、嬉しい限りです。選者の家藤正人先生（俳句集団いつき組）による厳正な審査の結果、優秀3句と特選1句が決定しました。

【優秀】

巡り来る春や学食伊予訛り	三村 進
友を待ち友を探さば小鳥来る	兎 角
シシリアンライスと出会ふ立夏かな	小川 朱棕

【特選】

ハンドルもサドルも濡れて天の川	桜 桃
-----------------	-----

入選の7句も加え、家藤正人先生の楽しい講評は10ページをご覧ください。

特選・優秀・入選の計11名の方々には賞品として図書カードをお送りいたしました。

第3回投句募集

テーマ詠：「サークル活動」

応募方法：ハガキ

E-mail

同窓会HP

締切：2023年11月30日（木）必着

者：家藤正人先生

（2010年 人文卒）

詳細は10ページをご覧ください。



LINEで法文学部同窓会とつながろう

愛媛大学法文学部を卒業し、どこかの街で、カレンダーをめくり、幸せに年を重ねていらっしゃるでしょうか。そして、多感な青春時代をおくったキャンパスを思い出す事もありますでしょうか。皆さんのスマホに、古今東西法文学部のニュースなどを配信しています。LINEでお友だちになってください。

みかんの白い花のような気持ちを、思い出してもらえるように、がんばります(人^)



2022

(令和4)年度

卒業式

2023.3.24(金)

[学位記授与式]

10:30~

愛媛県県民文化会館
(メインホール)

令和4年度 卒業生数

◆総合政策学科 (2名)

昼間主 1名 夜間主 1名

◆人文学科 (1名)

昼間主 1名

◆人文社会学科 (383名)

昼間主 284名 夜間主 99名

◆法文学研究科 (1名)

人文科学専攻 1名

◆人文社会科学研究科 (5名)

法文学専攻 法学コース 1名

法文学専攻 人文学コース 4名



法文学部生代表
人文社会学科 河野 碧音さん



大学院生代表
法文学専攻 坂井 彪さん



2023

(令和5)年度

入学式

2023.4.6(木)

10:30~

愛媛県県民文化会館
(メインホール)

令和5年度 入学者数

◆人文社会学科 (381名)

昼間主 287名 夜間主 94名

◆人文社会学科 (3年次編入) (26名)

昼間主 7名 夜間主 19名

◆人文社会科学研究科 (11名)

法文学専攻 法学コース 2名

法文学専攻 人文学コース 9名



式辞を述べる仁科弘重学長

「青い地球交流記」(ダイジェスト版)

2022年度は、「3年ぶり」がひとつのキーワードのようになり、コロナ禍を経て、さまざまな活動が再開された年となりましたが、法文学部でも引率型の海外研修が再開されました。今年は「特集号：再開・再会」より、コロナ後初の実施となった、タイでの海外インターンシップの実施報告とふりかえりレポートをご紹介します。(『青い地球2022』編集長より)



海外インターンシップ実施報告

スタッフ：榎林 建司・石坂 晋哉（法文学部）
 参加者数：6名（法文学部生5名、工学部生1名）
 研修内容：企業見学（CP ALL、TOYOTA GREENTOWN、YAMAMORI）、提携先大学の広報活動への参加、語学文化研修、学生交流会、世界遺産視察等
 行程：2022年9月3日羽田空港発、9月12日羽田空港着
 費用：20万円程度（国際航空券代：約12万円、日本国内移動費：約2.6万円（松山発着の場合）、宿泊費・食費：3万円程度、タイ国内移動費：ほぼ0円！、その他：1～2万円程度）

法文学部ではコロナ後初となる引率型海外研修を、9泊10日の日程で、タイにて実施しました。渡航前には、提携先大学であるパンヤピワット経営大学（PIM）との間で、学生主体のリモート交流をし、両学学生の「期待感」を高めました。コロナ禍という事情等により、今回は例年と異なり、高齢者ケア施設でのアクティビティや中等教育学校での模擬授業を、残念ながら行い得ませんでした。それでも、参加学生は能動的な姿勢で研修に取り組みました。例えば、企業見学では、質問タイムに積極的に手を挙げ英語で質問をし（「会社が大学を設立する意義とは?」、「生産性向上のための機械化推進とタイ人の雇用確保とのバランスをどう考えているか?」等）、PIMビジネス日本語学科学生との交流では、自分の出身地の紹介を、「わかりやすい日本語」に心がけながら行っていました。また、温かく私たちのお世話をしてくださったPIM職員の方々の「プロ意識」からも多くを学んだようです。渡航費補助については、4名が7万円、2名が4万円を受給しました。また、本学のご配慮により、今回はタイでのVAN借上代等を全額補助していただきました。多くの皆さまに、深く感謝申し上げます。



ふりかえりレポート 「コトバの壁」を乗り越えるには？

済木あかね
 （2回生＝掲載時、現在3回生）

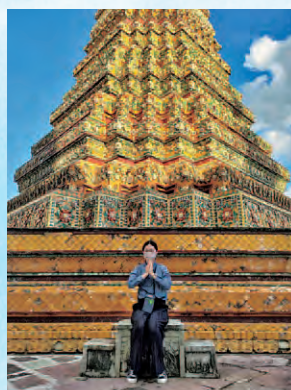
今回の海外研修を経て特に実感したことは、「言語の壁は自分が思っている以上に高い」ということである。昨今は英語が世界共通語としての立ち位置を確立しており、日本企業でも社内公用語を英語に設定している場合も、まばらにみられるようになってきた。また、私自身大学で接する外国からの方々は、大抵英語に堪能（またはネイティブ）であり、「英語は世界共通語、誰でも簡単な言葉は通じる」と実感することが多かった。しかし、今回タイで現地の人々とかかわる中で、少なからずその考えは覆されることとなった。やはり現地の言葉を話す・理解できるということは重要である、と気づいたのだ。

しかし、同時に「コトバが通じなくとも、相手を理解しようとしたらある程度は通じる」ということも、実際に体験した事実である。例えば、コンビニ

エンスストアに行った際にタイ語で何かを尋ねられているとする。タイ語がわからないと、何を言っているかはよくわからないだろう。だが、弁当をもって店員の背後にある電子レンジを指されると、「お弁当をあたためますか?」と聞かれていると推測できる。マーケットに行った際は、金額を電卓で示してくれるなどの対応を行ってくれる人もいた。このように、言葉を理解することができずとも、双方の努力によってコミュニケーションを取ることができることを、非英語圏の国で体験することができた。この「双方の努力」が、特に母語話者同士での会話ではあまり注目されない分、これからの生活で意識していくべきことのひとつであると考えた。（中略）

本インターンシップは、先生方はもちろん、提携先大学であるパンヤピワット経営大学の日本語学科の学生を筆頭として、多くのタイの方々に助けられ、はじめて実現したものである。日程の後半に現地の学生が私たち日本人学生を連れて、ナイトマーケットや観光地、カフェに連れて行ってくれたように、これから日本を訪れる予定の留学生の方とも多く話し、多くのものを国に持って帰ってもらえるように、全力でサポートしたい。

（渡航終了直後に、授業担当教員へ提出した「ふりかえりレポート」より抜粋。一部補筆修正。）



支部だより

関東支部 [東京章光会]



新型コロナウイルス禍で中断していましたが、4年ぶりに令和5年7月1日(土)に東京章光会(愛媛大学文学部同窓会関東支部)第56回定期総会を過去何回か行った大手町サンケイプラザで開催しました。

当日はあいにく雨の中、来賓として松本長彦同窓会会長、畠中節男同窓会副会長、岡田禎之同窓会広島支部支部長、玉井周平同窓会四国支部支部長、同窓会学生アンバサダー3名をお招きして総勢36人の出席(合同懇親会のみ参加者もあり新社会人2名を含み総勢42人)となりました。

総会では大村万夢里事務局長補佐の司会のもと、阿部仁会長の開会の辞に始まり、松本長彦同窓会会長に祝辞をいただき、続いて令和元年度から令和4年度までの活動報告、令和5年度活動方針案、令和元年度から令和4年度までの会計報告案、令和5年度予算案の審議を行い、提案どおり満場一致で承認されました。三宅一夫監査により会計監査報告も発表されました。

定期総会終了後、4階のホールに移動して、校友会首都圏支部、ユーカリ会(農学部同窓会)東京支部、工業会(工学部同窓会)東京支部との合同懇親会を開催しました。今回から工業会東京支部も加わり、100名を超える参加となり盛大な会となりました。

合同懇親会では法文学部平成4年卒業の高田賀夫さんとその家族および友人による弦楽四重奏も行われました。ペギー葉山さんの「学生時代」や坂本九さんの「上を向いて歩こう」など懐かしい親しみやすい曲もあり楽しめました。

4年間途絶えていた会員名簿の整理や課題である若手の総会参加者の拡大を役員一同今後努力しますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。



(東京章光会 副会長兼事務局長 荒木雅弘)

東京章光会連絡先

会長 阿部 仁(法76)
携帯 090-4074-5793
E-mail: abe873@sweet.ocn.ne.jp
副会長兼事務局長 荒木雅弘(法76)
携帯 090-2457-7552
E-Mail: masahiro.araki@nifty.com

関西支部 [にきたつ会]



令和元年にきたつ会支部総会

関西支部(にきたつ会)はコロナ禍の影響で、令和2・3・4年の支部総会が開催できませんでした。しかし令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から「5類感染症」に変更されたことを受けて、本年は支部総会を開催いたします。例年は7月の開催でしたが、準備の都合で11月になりました。お誘い合わせの上、ご参加ください。



日 時: 11月12日(日) 11:00~

場 所: プリーゼプラザ

(大阪市北区梅田2-4-9 プリーゼタワー803・804号室)
Tel. 06-6344-4888

内 容: 支部総会、懇親会

会 費: 5,000円(懇親会費)



お子さん連れ、ご夫婦・ご家族連れでの参加もOKとし、同伴のお子さん・配偶者・ご家族の会費を割引いたします。お土産なども用意する予定です。詳細は、同窓会HP・LINEアカウントにてお知らせします。

関西在住の方のご参加をお待ちしています。また、この機会に合わせて同期会を関西で開いてみませんか。

※同封のハガキで申し込みができます。



令和5年7月23日(日)に臨時役員会を開き、旧役員から継続して役員に就任頂ける方3名、ならびに新しく役員に就任する4名、顧問2名の新たな体制で再スタートを切りました。

新役員候補 (11月12日の支部総会で承認いただきます)

顧問	岡本 正明(昭和42年卒)
顧問	平田 篤資(昭和43年卒)
会長	島田 光照(昭和54年卒)
副会長	澤井 達夫(昭和47年卒)
副会長	岸川 良藏(昭和54年卒)
事務局長兼会計	高橋 寛(昭和61年卒)
幹事	増永 昇(昭和54年卒)
幹事	山崎 幸司(昭和54年卒)
幹事	新井佐知子(昭和62年卒)

広島支部



広島支部では、令和2年と令和3年の同窓会活動は、新型コロナウイルスの流行により自粛しておりましたが、令和4年に幹事会活動を再開しました。そして今年は、4年振りとなる同窓会広島支部（名称を中国支部に変更予定）総会開催の運びとなりました。

＊

ところで、皆様ご承知のとおり、今年はサミットが広島で開催されました。サミット開催1か月前から全国の警察官が広島へ集結し警備に当たる光景は、非日常的で、さながら映画を見ているようでした。サミット開催期間中は、大規模な交通規制があるなど、広島の実業家には、少なからぬ負の影響がありましたが、反対に、広島を国内外に宣伝するといった明るい影響もあったように思います。

愛媛県と広島県は、海を挟んで向かい合う関係にあります。数日から数週間の滞在型観光による観光地の広域化の流れが本流になり、両県、あるいは四国地方と中国地方に国内外の観光客が行き来する、そんな活気に満ちた将来を期待したいですね。

＊

さて、同窓会広島支部総会は、令和5年11月18日（土）午後1時から、広島ガーデンパレスで開催します。同窓生の多数のご参加をお待ちしています。

※同封のハガキで申し込みができます。

役員

顧問	竹本 義昌（昭和33年文理学部 人文乙卒）
顧問	楠本 淳（昭和35年文理学部 人文乙卒）
支部長	岡田 禎之（昭和40年文理学部 人文乙卒）
副支部長	難波 宜久（昭和62年法文学部 法学卒）
事務局長	品川 瑞（平成5年法文学部 法学卒）
幹事	村上 道機（昭和43年文理学部 人文乙卒）
幹事	梶原 勝（昭和63年法文学部 経済卒）
幹事	松本 亜紀（平成5年法文学部 法学卒）
幹事	大西 慎也（平成18年法文学部 総政卒）

事務局連絡先

あさが司法書士事務所内 品川 TEL 082-208-5886

四国支部



第15回 総会報告

コロナ禍で2年間開催できませんでした。が、感染状況がかなり落ち着いてきた令和4



年10月22日（土）13:00から東京第一ホテル松山（松山市南堀端町）にて、支部総会を開催しました。宇都宮支部長の挨拶のあと議案が承認され、懇親会を行いました。法文学部から井口秀作学部長、本部から松本長彦会長、東京章光会から阿部仁会長、関西にきたつ会から山岸治事務局長、広島支部から岡田禎之支部長に出席していただき、さらに1974年入学の同期会も加わり、総勢46名が親睦を深めました。長年、支部長を務められた宇都宮真由美支部長が退任され、玉井周平副支部長が支部長に就任しました。

四国支部理事会（お花見）

令和5年4月1日（土）すし丸本店にて18名が参加して理事会を開催しました。また理事会に先立ち、松山城を散策しました。



ちょうど松山春まつり（お城まつり）開催日と重なり、本丸広場では野球拳全国大会が盛大に行われていました。

第16回四国支部総会のご案内

日時：令和5年10月21日（土） 13:00～

場所：道後山の手ホテル（松山市道後鷺谷町1-13）

会費：5,000円（懇親会費）

※同封のハガキにてお申し込み・案内請求してください。

四国支部事務局連絡先

支部長：玉井周平 携帯：090-8973-7650
E-mail: tousui78@yahoo.co.jp
事務局：鳥生勉歳 携帯：090-4506-1684
E-mail: toriu71@gmail.com

新三役あいさつ (2)

2022年から新体制になりました。
3年間よろしくお願いします。



法文学部同窓会副会長

重松 直江

(1994年経済学科卒)

(2002年法文学研究科総合法政策専攻修了)

昨年1月より同窓会副会長を拝命いたしました重松直江です。私は、愛媛大学を卒業後、一般企業に勤めた後に税理士を志し、母校愛媛大学大学院へ入学しました。学部と大学院を愛媛大学で過ごし学べたことは、今思い返してもとても幸せなことでしたし、私の人生を彩りあるものにしてくれました。現在は、松山市内で税理士事務所を営むとともに、愛媛大学の監事に就任しております。

同窓会副会長の私の役割は、女性も気軽に参加できる同窓会にしていこうと思っています。私は現在小学生の子供がおりますが、子供と一緒に理事会に参加することがあります。きっかけは、理事会開催時に子供を預かってくれる人がおらず、会へ相談したところ、どうぞ子供さんも連れてきてください、とっていただいたことです。親子共々ははじめは恐縮していたのですが、帰宅後子供が、いつもと違う母の姿を見ることができて楽しかったこと、愛媛大学に行けて楽しかったことを伝えてくれました。同窓会の「場」がそう感じさせてくれたのだと思います。

活動は真面目な同窓会ですが、幅広い年齢層の先輩方が沢山いらしゃって、子育ての話をしたり、仕事のことで相談に乗っていただいたり、「場」は優しく、とてもあたたかいです。子育て中だから、...と同窓会参加に二の足を踏まれている方（もちろん男女問いません）にも、ぜひ気軽に参加していただき、全世代で交流できる同窓会にしていきたいと思っています。

微力ではございますが、精一杯努めさせていただきます。よろしくお願い致します。



法文学部同窓会事務局長

鳥生 勉 歳

(1989年文学科卒)

4期目(計12年)の事務局長となりました。写真は同窓会に初めて関わった17年前です。現在はいく少し老けています(孫が1人)。

ここ数年の取り組みです。

- ◆**同窓会費の値上げ** (2016～、1→2万円)
学生数減(約500→約380)に合わせて実施し、収入増で財政が安定
- ◆**同窓会員からの寄付** (2017～)
法文学部生の留学の支援や、「ふるさと応援」で支部活動を応援
- ◆**寄付返礼品・卒業記念品の作成** (2018～)
ぶんぼ一野帳・マスクケース・スマタペン・USBメモリーなど
- ◆**60周年記念事業** (2019)
ぶんぼ一バック・エコバック・クリアファイルなど
- ◆**同窓会名簿発行** (2019、17年振り)
- ◆**俳句募集** (2021～)
今回のテーマ詠は「サークル活動」。皆さんも是非投句を(11P参照)
- ◆**HP刷新** (2021)
- ◆**LINEアカウント** (2022～)
今後、月2回ペースで大学や愛媛・松山の話をお届けできる予定(3P参照)
- ◆**学生アンバサダー制度** (2023～)
現在5名(26～27P参照)

以上のように、コロナ禍にありながら活動の幅を広げてきました。その分、事務局の負担が増えて悲鳴を上げている状況です。

他学部・他校の同窓会を見ても、抱えている課題は「高齢化」です。若い人が母校に関心を持たなくなっているようです。卒業して数年の20代、仕事や子育てが少し落ち着いてきた50代の方の参加が望まれます。学生アンバサダーにはフレッシュな感覚を吹き込んでもらい、将来の同窓会活動に繋げていければと期待しています。

魅力ある同窓会を目指して、無理のない範囲で取り組んでいきたいと思っています。誰かの犠牲の上に成り立つ組織は長続きしません。より多くの同窓生にご参加いただき、同窓会を盛り上げていくことができればと思います。

愛媛大学法文学部同窓会理事会報告

2022年度 第2回(通算第87回)理事会

日 時：2022年10月14日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館1F Maple

【報告事項】

1. 新型コロナウイルスの影響と同窓会・大学の現状
2. 第26号会報発行
3. 2022年度同窓会提供講座「社会と人間」
4. 支部活動・支部長会など報告と予定
5. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
6. 俳句募集報告

昨年の会報で呼び掛けた「第1回俳句募集」は、合計24名、総数87句の応募がありました。選者の家藤正人先生(俳句集団いつき組)による厳正な審査の結果、優秀3句、入選6句が決定しました。

【審議事項】

なし

2022年度 第3回(通算第88回)理事会

日 時：2023年2月10日(金) 18:00～

場 所：愛媛大学校友会館1F Maple

【報告事項】

1. 新型コロナウイルスの影響と現状
2. 2022年度同窓会提供講座「社会と人間」終了
3. 2023年度会報編集委員会
4. 支部活動・支部長会など報告と予定
5. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
6. 寄付について
7. 2022年度決算(暫定)について

【審議事項】

1. 2023年度の活動計画 →承認
2. 2023年度予算案について →承認
3. 「愛媛大学法文学部同窓会学生アンバサダーに関する内規」の制定について →承認
LINEアカウントや同窓会報の充実、現役学生の就職支援、将来の同窓会活動への参加などを目的に、同窓会活動のお手伝いをしていただくべく、現役学生から「学生アンバサダー」を募集したいと思います。

2023年度 第1回(通算第89回)理事会

日 時：2023年6月9日(金) 18:00～

場 所：愛媛大学校友会館2F サロン

【報告事項】

1. 新型コロナウイルスの影響と現状
2. 2023年度同窓会提供講座「社会と人間」について
3. 2023年度会報編集委員会進行状況
4. 支部活動・支部長会など報告と予定
5. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
6. 同窓会員 会員数報告

2022年9月卒業(修了)生 14

2023年3月卒業(修了)生 378

【内 訳】	男	女	計
総合政策学科	2	0	2
人文学科	1	0	1
人文社会学科	158	225	383
研究科	3	3	6

【総 計】

文理学部19年(1953年～1971年) 2,222

法文学部49年(1972年～2022年) 21,631 計23,853

(参考) 2023年4月 法文学部入学者数

2023年4月入学生			418
人文社会（昼）	122	165	287
人文社会（夜）	32	62	94
3 年 次 編 入	14	12	26
研 究 科	3	9	11

【審議事項】

1. 2024年度提供講座「社会と人間」開講について →承認
2. 「えみか夢基金」(愛大基金)への寄付について →承認
「えみか夢基金」へ100万円を上限として寄付をしたと考えます。
3. 2023年度の活動計画(再提案) →承認
1) 「withコロナ」で活動せざるを得ない状況の中、同窓会報の発行・支部支援・提供講座・名簿管理・学生支援・監査などの基幹となる活動については滞ることなく進め、ここ3年ほぼ開催されていなかった支部活動にも力を入れていきます。
2) 同窓会報は、同窓会員への大学・学部・同窓会活動の紹介や会員相互の情報交換の場として、9月発行を目指します。
3) 3年振りに対面での授業ができるようになった同窓会提供講座「社会と人間」をさらに充実させるため、講師選定や運営を進めます。
4) LINEの公式アカウントを充実させ、新卒生をはじめ若い世代を引きつけ、同窓会活動に参加してもらうための取り組みを進めます。
5) 会員からの寄付を活用して、同窓会活動をより活性化し、法文学部学生支援事業を充実させます。
6) 同窓会名簿の精度を高め、支部活動に有効活用します。
7) 日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事会運営に努めます。
8) 学生アンバサダー制度を導入して、現役学生の若さやアイデアを活用するとともに、学生支援を充実させます。また、卒業後の同窓会活動への参加に繋がるよう努めます。
4. 2022年度決算・監査報告 →承認
1) 会費収入は、予算を16万円下回り、784万円でした。寄付金の繰り入れが100万円で、利子と合わせ、収入合計は884万928円です。
2) 寄付金の収支については、収入が約150万5千円、支出は178万5千円となりました。ふるさと応援は4支部合計で20万4千円でした。
5. 2023年度予算案(再提案) →承認
1) 一般会計・寄付金ともに、ここ数年の状況の変化に合わせて項目を変更しています。具体的には、一般会計では「学部学生就職支援」を「提供講座」に、愛媛大学基金への寄付については「愛媛大学基金への寄付」と項目を立て、「IT化費用」を臨時費から通常予算へ移し、新たに「学生アンバサダー」の項目を設けました。寄付金では「寄付返礼品」を独立させて、事務手当を「事務経費」に組み入れました。
2) 寄付金については、収入は昨年度より減の140万円を見込んでいます。支出はふるさと応援が20万5千円、返礼品に30万円を計上しました。また、寄付金の趣旨を考慮して、来年度の事務経費等を残して一般会計へ160万円を繰り入れました。
6. 監事交代、にきたつ会立て直しについて →承認

俳句コーナー第2回投句 選句結果発表 & 講評

俳句集団いつき組の家藤正人です。

結果発表第2回となる今回の兼題は「学食」です。学校生活になくてはならない「食事」を支えてくれる大事な場所にはたくさんの人が集まり、様々な出来事が交差します。

さっそく入選句をご紹介します。

入選七句

誰かいる 西日の中の 隅の椅子

赤星 勝

夏の季語「西日」が印象的な食堂の光景です。強烈な光量が学食の空間を満たすなか、ぽつんと隅の椅子に座る人のシルエット。「おや？」と気になってしまう心理が語順によってうまく伝わりますね。ちなみに、実は俳句は五七五の間を空けずに書くのが正しい書き方なのです。正しい書き方をするとさらに良い句に見えて参りますよ。

麦飯の消化のよさや秋学食

求菩提 三六

麦飯は白米に大麦や裸麦を混ぜて炊いたご飯。夏のビタミン不足を補うためにかつてよく食べられたことから夏の季語となっています。ものが溢れる現代では食べる機会も減ったかもしれませんが、作者にとっては忘れがたい学食の味であるのでしょう。残暑厳しい「秋」にこそ思い出される青春時代の記憶であります。

銀杏散る一日百円なる食堂

川本 太圓

こちらも十数年、あるいはそれ以上昔の学食の光景でしょう。物価高騰の現代では「一日百円なる食堂」の実現は到底無理な話ですから。手頃な価格で毎日学生のお腹を満たしてくれる「食堂」のなんとありがたいことか。季語「銀杏散る」によって、城北キャンパスの色づく銀杏並木の映像と、そこで過ごした時間の長さなどが表現されています。

新米をかき込む哲学科の教授

小田寺 登女

新米の美味しい実りの秋。学食にも「新米入りました」なんて張り紙もしてあるのかもしれませんが。ここぞとばかりに大盛のご飯をかき込むように食べているのはなんと「哲学科の教授」。お堅い印象を受ける人物・役

職だからこそ、人間くさい行動との取り合わせがユーモラスにつながります。

学部越え話題飛び交ふ夜長かな

山田 将大

いろんな学部の人間が集まる学食ならではの状況。青春って感じがしますねえ。「飛び交ふ」の一語が澆刺と過ぎていくその場の時間を伝えてくれます。ただ、学食っていったい何時くらいまでやっているんだろう。僕の在籍していたころは、キッチンが暗くなっても座席だけは夜10時頃まで開いていて学生が集っていたなあ。

桜咲くバケツプリンにあこがれて

坂東 暁子

愛大学食の名物「バケツプリン」を句材に選んだ句はいくつか届きましたが、代表してこちらをご紹介します。噂に聞いてたバケツプリンをついに学生として食べにいける！と期待に満ちた作者の足取りが見えるようです。桜咲く入学の頃の賑々しさと明るさと。

スニーカーは踵削て芝桜

中小企業組合士

履物の描き方によって人物像を想像させるのが玄人の味わいです。爪先を上げ気味にして踵が路面を削るような歩き方をすると、その部分が重点的に削れていてしまいます。靴と足運びを描きつつ、同じ一枚の風景に背の低い「芝桜」が収まっているのも巧み。「削りて」なのか「削れて」なのか、送り仮名を補うと読みのブレがなくなりさらに良くなりますね。

優秀三句

巡り来る春や学食伊予訛り

三村 進

「巡り来る春や」で八音、「学食伊予訛り」で九音、合計で十七音。中七の途中で意味の切れ目のある句跨がりの形です。二つのパーツで構成することによって、賑々しい「学食」の空間とざわめきが再現されてきます。食事をしながらてんでに口を開く学生たちの「伊予弁」が渦のように満ちる、新たな活力の春であります。

友を待ち友を探さば小鳥来る

兎 角

食事の前の待ち合わせとも、学食に入ったあとの行

動とも読めます。個人的には後者の読みで想像しました。「探さば」は「もし探したとしたら」の意味になります。めまぐるしく出入りする人の波を傍目に、探すでもなくただ待っている空白の時間。繰り返される「友を」のリフレインもゆったりと気持ち良い。外を見上げれば秋の小鳥も来ているのでしょうか。

シシリアンライスと出会ふ立夏かな

小川 朱棕

初めて聞きました「シシリアンライス」。調べてみると佐賀県のご当地グルメと解説ができました。ご飯の上にサラダと炒めた肉と玉葱を乗せ、マヨネーズで仕上げた料理だそうです。ほほう、未知の料理との出会いも学食の楽しみでありますねえ。ご飯の上に盛り上がるサラダの明るい色彩、未知と出会う知的好奇心、そして立夏の明るい陽射し。全て燦燦と煌めきます。

特選一句

ハンドルもサドルも濡れて天の川

桜 桃

「学食」という兼題から発想を飛ばした一句です。学生にとって、集まれる場所があるのは大事なことです。気の合った仲間とご飯食べて、あれこれ楽しく話して、時間はあっという間に過ぎていきます。そろそろ解散しようとして動き出した頃にはもう夜。しかも気づかない間に雨が通り過ぎていったらしい。夜空は雨に洗われ、天の川が一筋白く横たわっております。あーあ、自転車濡れてんじゃん～なんて言いながらも、水を払ってサドルに跨がる。それを厭わず実行できるのも若さです。みずみずしい青春の一場面であります。

第3回投句募集

テーマ詠：「サークル活動」。季語は自由。サークル活動に関する思い出などを詠んでください。

応募句数：1人5句まで

応募方法：

ハガキ 〒790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学法文学部内

愛媛大学法文学部同窓会

E-mail support@ehime-u-houbun-dousoukai.com

H P https://ehime-u-houbun-dousoukai.com/

締切：2023年11月30日(木)必着

発表表：第28号同窓会報にて

※HP上では3月末に発表予定です。

選者：家藤正人先生

※優秀作品には賞品を差し上げます。奮ってご応募ください！

(選者紹介)

家藤正人 (いえふじ・まさと) 氏

1986年1月20日生まれ。愛媛県出身。

愛媛大学卒業後、本格的に俳句に携わる。夏井いつきの句会ライブにてアシスタント経験をつむ。自身も講師として、愛媛新聞カルチャー「働く人と学生のための俳句」などのクラスを持つ。老人養護施設や児童館などへの出張俳句教室を行う他、学生を対象とした単独句会ライブも行っている。

2016年より南海放送ラジオ「夏井いつきの一句一遊」にてアシスタント、2019年より南海放送ラジオ「家藤正人『一句一遊』虎の巻」ではパーソナリティを務める。2023年4月よりNHK俳句出演。そのほか、松山市公式俳句投稿サイト「俳句ポスト365」初心者欄選者。香川県宇多津町「令和相聞歌」企画参加および選者。国際交流基金インドニューデリー日本文化センター「南アジアオンライン俳句コンテスト」選者。

法文学部教員人事異動

(2022.4.2～2023.4.1)

講座名	氏名	職名	異動年月日
▶社会科学講座	高橋 勇介	准教授 (昇任)	2022.10.1
	加藤 祐子	准教授 (昇任)	2023.4.1
	西脇 秀一郎	准教授 (昇任)	2023.4.1
	池野 敦貴	講師 (採用)	2023.4.1
	近藤 有希子	講師 (採用)	2023.4.1
	清水 涼介	講師 (採用)	2023.4.1
	丹羽 寿美子	講師 (採用)	2023.4.1
	藤村 瞳	講師 (採用)	2023.4.1
▶人文学講座	越智 雄磨	講師 (転出)	2022.9.30
	田島 篤史	准教授 (昇任)	2022.10.1
	塚本 秀樹	教授 (転出)	2023.3.31
	大塚 由美子	准教授 (転出)	2023.3.31
	川島 佳弘	講師 (採用)	2023.4.1
	坂口 周輔	講師 (採用)	2023.4.1
	徐 敏徹	講師 (採用)	2023.4.1
	松枝 啓至	講師 (採用)	2023.4.1
	早田 美保	講師 (昇任)	2023.4.1

享保13年、幕府採薬使によって露見した 土佐藩の製糖業



平井 清貴

(2022年 法文学研究科修了)

— 襖の下張り文書に記された幕府見分の実態と藩の対応 —

江戸時代中期まで、我が国は砂糖製造技術を持っていなかった。そのため、輸入に頼るしか方法がなく、支払いのために、金、銀、銅など貴重な金属が大量に国外へ流失した。これを憂いた第八代将軍、徳川吉宗は、砂糖の国産化を奨励し、各藩で製造に取り組むが、なかなか成功することができなかった。そうした中、享保13(1728)年、土佐藩領内で原料の甘蔗(サトウキビ)が栽培され、黒砂糖の製造に成功した。この時、薬草などを採取するため、たまたま土佐を訪れていた幕府採薬使に見つかってしまう。その顛末を克明に記した古文書が、襖の下張りとして使われ、奇跡的に残されていた。沖縄、奄美などを除くと、おそらく日本初の快挙といえる土佐藩の製糖業の実態をこの古文書から読み解いていく。

はじめに

昭和36(1961)年6月8日付の高知新聞に「高知女子大学(現高知県立大学)の廣田孝一教授が、見分のため土佐にやって来た幕府の採薬使一行と、その対応に追われる藩の役人たちの様子を詳細に記した古文書を、高知県吾川郡春野村(現高知市春野町)の旧家の襖の中から発見した」という記事が掲載された。

内容は、享保13(1728)年、第八代将軍、徳川吉宗の御庭番である植村左平次ら採薬使一行が土佐へ見分に来るので、その対応についての細かい指示などを書き留めた勘定頭の仕立書、及び見分の際の覚などである。中には「金銀銅などの鉱山はあるか」と聞かれたら、「金山も銀山もない。銅山についてはいくつか試掘してみたが、利益にならないので閉鎖した」と答えることなど、具体的な想定問答も含まれている。さらに、幕府に内緒で、庄屋の屋敷内で栽培していた甘蔗(サトウキビ)が採薬使に見つかってしまったという想定外の報告などもあり、藩の役人たちの慌てふためいた様子が克明に描かれている。

土佐の砂糖製造が諸藩に比べて、かなり早い時期から行われていたことなどを窺わせる貴重な歴史資料だが、この襖の下張り文書は、長い間、所在不明となっていた。

今から300年近く前、奄美などの南西諸島、琉球を除くと、わが国初ともいえる国産砂糖の製造が、すでに土佐で行われていたことを証明する貴重な歴史資料だといえる。しかし、この襖の下張り文書が伝える土佐藩の製糖業は、その後、なぜかこの古文書とともに、いったん歴史の表舞台から姿を消してしまう。

一体、なにがあったのだろうか。

第一章 幕府よりも早い黒砂糖製造への取り組み

土佐は気候が温暖で甘蔗栽培に適していたこともあって、早くから藩主導による製糖業への取り組みが行われていた。土佐藩の浦方記録である「手結浦日抄」

に記されている。

【史料一】「手結浦日抄」砂糖仕成の条

先行研究のほとんどがこの記録を引用し、享保年間に土佐で甘蔗栽培が行われていたが、砂糖は完成には至らず、わずか、1・2年で製造中止となったと結論付ける。しかし、襖の下張り文書には、砂糖の製造が幕府採薬師によって露見したと記されている。

【史料二】「土佐藩甘蔗栽培露見始末に関する記録(襖の下張り文書)」¹⁾

【史料二】の覚によると、土佐藩の甘蔗入手は幕府採薬使に露見した三ヶ年前と記されており、享保10(1725)年にはすでに始まっていた。このことから第八代将軍、徳川吉宗が砂糖の国産化を推し進めるために甘蔗を薩摩藩経由で南西諸島から取り寄せた享保12(1727)年よりも早い時期、幕府の取り組みとは別に、土佐藩では御手先事業として独自に国産砂糖製造への取り組みが行われていたことが窺える。

実際に、その後書かれた【史料三】には、取りやめたどころか、黒砂糖が完成したことが記されている。

【史料三】「浦司要録」享保十四年十二月七日の条

土佐藩の浦戸役人が書き残した公式記録であるこの「浦司要録」には、郷中から買い上げた荏胡麻と試作した黒砂糖20斤(12キロ)を上方に送るように指示を出したことが記されている。わずか20斤とはいえ、享保14(1729)年には、すでに土佐で黒砂糖が製造されていたことを示す重要な証拠である。

襖の中から発見されたこの古文書は、享保13(1728)年当時の土佐藩の製糖業の状況を克明に伝えるとともに、甘蔗の入手経路をはじめ、製糖の規模、実際に栽培を行っていた庄屋と藩との関係、さらに、短期間で撤退してしまった原因などを知る重要な手がかりを与えてくれる資料だといえる。

第二章 幕府採薬使への藩の対応

享保から宝暦期にかけて幕府の命によって諸国を見分して廻った採薬使たちの調査記録は、植村政勝(左

になるだろう。仁左衛門が作った砂糖が固まり、助言した通りの方法によって、砂糖に蜂蜜ほどのねばりが出たら、二つ小さな壺に詰め、封印の上、松井半兵衛へ届けるようにしてほしい。一つは試しとして、もう一つは御城へ差し上げる。その際に、土佐国で、近年、甘蔗を植え付けていること、郡奉行の百々弥三右衛門と申者へ、もっと植え広めさせ、砂糖製造を推し進めて欲しいこと、そして、必ず国益となる旨、申し立てるべきである」

こうして、黒砂糖は完成し、翌、酉(享保14年)2月、御飛脚便によって江戸へ送られた。

国産砂糖の黎明期ともいえる当時、甘蔗の入手経路、製糖技術、実際に製造に関わった庄屋や国産方など藩の役人の動きなどを細かく知ることができる。

第三章 短期間で挫折した未熟な製糖技術

順調に進んでいると思われた製糖業だが、その後、進展はみられず、以後、寛政年間まで歴史の表舞台から姿を消すことになる。土佐藩士、馬詰親音が、幕府の御用筋をつとめる池上幸豊から製糖法を学び、また、江戸の製糖教師、荒木佐兵衛を迎えての再出発まで、およそ60年の空白の期間となるのである。

植村左平次らによって極秘の甘蔗栽培が露見、彼の好意的な指導や配慮はあったが、幕府による殖産産業への統制がみられ、その取り組みを断念せざるを得なくなった。この時点で3、4年続いていた藩の御手先事業としての製糖業への取組みは挫折したとされている。それにしても、なぜ、讃岐、阿波、紀州などよりも地理的条件に恵まれていた土佐の製糖業が、忽然と公の場から姿を消したのだろうか。

先行研究の多くは「殖産興業への統制によって幕府の許可を得ることができなかった」としている。しかし、土佐藩の黒砂糖製造に関しては、草創期のことであり、幕府にとっても製糖技術はまだ確立しておらず、圧力をかけて撤退させるよりも、奨励して技術移転をはかった方が得策だと考えられる。土佐藩の製糖業が頓挫した理由は、幕府による殖産興業への統制ではなく、他に原因があったのではないだろうか。

江戸時代とその前後にわたる長期間について気候復元をした研究に「Maejima and Tagami (1986)」がある。この論文によると、15世紀から19世紀はCold Age (小氷期)と呼ばれる寒冷期で、国内では、元禄、享保、宝暦、天明、天保、慶應などの飢饉が起こっている。江戸時代の小氷期は、小間氷期をはさんで、3つの小氷期に分かれ、享保の飢饉は、第1番目と第2番目の小氷期の間の小間氷期にあたるのである。

また、名古屋大学大学院地球環境科学研究所の中塚武教授らによる樹木年輪酸素同位体比から割り出した夏季降水量と平均気温のグラフをみると、享保13(1728)年は日本の歴史2000年の間で、もっとも雨が多く、気温が低い夏だったことがわかる(図表1参照)。

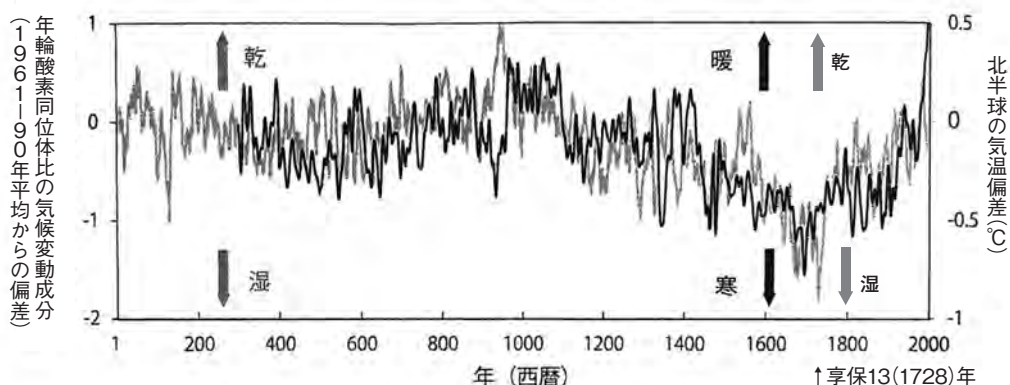
農業生産が気候によって厳しくコントロールされていた時代であり、小間氷期で、しかも北緯33.3度という甘蔗栽培の北限(当時)ともいわれる土佐では、甘蔗栽培は難しかったのかもしれない。辛うじて育ったとしても製糖できるほど十分な糖度が蓄えられるかどうか疑問である。現在でも、九州や四国などの温帯地域で栽培される甘蔗は、製糖の歩留まりが低いといわれており、寒さに強い品種の改良が行われているほどである。

そこで、当時の土佐藩士の日記、「板垣氏雑記」をめぐってみると、享保13年の気候に関する重大な記録が見つかった。

【史料五】『南路志』² 第七巻「年譜」所収、「板垣氏雑記云」享保十三年の条

これによると、1月2日朝から雪が降り始め、3日まで降り積もり、「四方山白妙不見分、晩景吹雪」という状況であった。この文章には場所の記述がないが、前後の文脈から仁井田村に近い高知城下の様子だと考えられる。高知城下で2日間も雪が降り積もるということは珍しく、この年の冬は例年よりもかなり寒かったと推測される。諸国で大雨。土佐でも7月末には虫が付き、作物に被害が出て、領内の3分の2は御検見を願うほどの40~50年ぶりの大凶作であったことがわかる。小間氷期における寒冷化、それに追い打ちをかけるような夏季の大雨、こうした異常気象が砂糖製作に致命的な

(図表1) 北半球の気温偏差(℃) 中塚武監修『気候変動から近世をみなおす』(臨川書店、2020年)



享保13(1728)年頃は気温が低く、雨が多い。享保の大飢饉は1732年。

享保13年は、日本の歴史2000年の間で、もっとも雨が多く、気温が低い夏だったことがわかる。

* 濃い線は気温、薄い線は降水量。矢印は寒暖、乾湿。

過去2000年間における夏季降水量の指標である中部日本の年輪酸素同位体比の気候成分の変動(灰: 11年移動平均値、Nakatsuka et al.2020)と北半球の平均気温の変動(黒: Mann et al.2008)。

結果をもたらしたのである。

日本熱帯農業学会『熱帯農業』三十八巻四号に「わが国の暖地におけるサトウキビの生長と物質生産力について、第4報 気温が蔗苗の生長と分けつ盛期および生育後期の光合成速度に及ぼす影響」という論文が掲載されている。気温が分けつ盛期、および生育後期のサトウキビ（甘蔗）の葉面積当たり光合成速度に及ぼす影響を調査したものである。

こうしたことから、製糖業からの撤退原因は、気候変動による寒冷化と夏季の豪雨だったのではないかと推定できる。

おわりに

黒砂糖誕生の黎明期について土佐藩の事例をもとに検証したが、先行研究では語られなかった多くの事実が見えてきた。砂糖の原料となる甘蔗を幕府よりも早く、薩摩からでもなく、海外からでもなく、独自に大坂で入手していたこと。製糖技術については、薩摩や諸藩に教えを乞っただけでなく、六十六部廻国聖をはじめ、他藩の人にも尋ねていたこと。幕府採葉使一行の見分の実態、及び対応に追われた藩の役人や庄屋たちの苦労などが明らかになった。伝承としてしか語られることがなかった土佐の製糖業は、高知の旧家から見つかった31枚の襖の下張り文書をきっかけに、その全貌が明かされようとしている。

幕府が採葉使の土佐廻国を通達してきた時、江戸表

から大坂屋敷を通じて国許に「甘蔗栽培が見つからないように、見分のルートから外すように」という指示が出されていた。それにも関わらず、休憩した庄屋の控えの本田で、120本余の甘蔗苗が見つかってしまった。応対した役人は、「庄屋が勝手にやったことで、御禁制のものとは知らなかった」と言い逃れるし、庄屋は庄屋で、国産方が大坂で手に入れ、渡されて育てている甘蔗苗でありながら「薩摩から買い求めたもの」と、平然と嘘をつき倒す。幕府の権威などどこ吹く風である。

いずれにしても、土佐藩の製糖業は、享保10(1725)年という極めて早い時期に始まっており、幕府や他藩を差し置いて、完成させていたことが証明された。

故廣田孝一教授は、この襖の下張り文書を発見した時、高知新聞記者の取材に対して「できることなら、この旧家に残っている他の襖も全部はがしてみたい」と答えている。それは真実の声を聴きたいという歴史学者としての矜持だったのだろう。（了）

主な参考文献

- 1 襖の下張り文書については、廣田孝一「土佐藩甘蔗栽培露見始末に関する記録について」（『海南史学』第4号、高知海南史学会、1966年）に、古文書発見の経緯、論考、全文翻刻が記載されている。
- 2 高知県立図書館編『南路志 卷七十五』（高知県立図書館、1990年）

退職された教員



塚本秀樹先生

- ① 1988(昭和63)年4月
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 言語学

出生地 大阪府

最終学歴 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学

学位・称号 博士(文学)

所属学会 日本言語学会、アメリカ言語学会、国際言語類型論学会、日本語文法学会、等

定年の65歳まで後もう1年あったのですが、2023年3月をもって、早期退職制度により、35年間にわたって務めて参りました本学を退職させていただきました。本当に多くの方々に御指導・御教示を賜りながら、また本当に多くの方々に支えられながら、今日まで続けることができました。お世話になりましたすべての方々に厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

特に着任当時のことが非常に懐かしく思い出されます。現在、昼間主コースでは、月曜日から金曜日まで90分の

授業が5時限制で行われていますが、当時は月曜日から金曜日までは4時限制で、土曜日の午前中も昼間主コースの授業として2時限行われていました。しかも、その授業時間は、100分でした（夜間主コースは、すでに設置されており、開講形態や授業時間は現在と同じでした）。今、100分と言いましたが、ほとんどの教員が10分遅れて授業を始め、10分早く終わるという、実際は80分授業でありました。中には、早く話すことができるからと言って、実質60分授業を行っている先生もいらっしゃいました。現在からは信じられない、非常に長閑な時代でありました。

当時は、大学全体において現在よりもはるかに時間の余裕がありましたので、自身の指導学生だけでなく、他の専門の学生とも、また専門の言語学だけでなく、高度な話題から低俗な話題まで本当にいろいろなことについて夜遅くまで語り合うことができました。こういったことは現在ではしたくてもできない状況ですが、当時は本当に大学らしいことが実践できていた時代でありました。

2023年4月に関西外国語大学外国語学部の教授に採用され、着任致しました。本学で学ばせていただいたことを糧としてもう数年間、教育と研究に尽力したいと存じます。

2017年卒業 河村 佳和

〔総合政策学科(夜間主)〕

社会に出てからの学び戻り

私は子供のころは学校というものが大嫌いでした。小・中学校は出席日数要件による留年が無いのをいいことにズル休みばかりしていました。さすがに高校に進学してからは留年・退学の危険があるため学校に行きはしましたが、それでも卒業要件ギリギリしか出席しませんでした。学校で学ぶことの意味が見いだせず、将来の目標もこれと言って無かったため、友達に会いに行くついでに高卒の肩書を取りに行っていた感じです。



高校卒業後はフリーターを4年間していましたが、ここでようやく一度目の転機が訪れ、やりたいことがなんとなく出てきました。「絵」というひどく大ざっぱなジャンルに関わりたいたいというものです。そして一念発起して専門学校へ入学し、イラストやデザインを学びました。専門の友達は年齢も入学事情も様々。おかげで多様な価値観や生き方・考え方など、同年代のみの友人しかいなかった高校までの環境では得られなかった沢山のものを得ることができました。卒業後はグラフィックデザインの会社に就職し、一応の目標は達成できた形になりました。

年は過ぎ30歳も後半に入ったとき人生の二度目の転機が訪れ、現職である行政書士という職業に出会いこれを目指すこととなりました。国家試験合格を目指し法律の勉強をしているうちに、本格的に法律を深く学びたいと思うようになりました。そこで選択肢に上がったのが大学への進学です。最初は「社会人入試枠」があり、かつ、「夜間制」があるということで日東駒専あたりを考えていましたが、経済的な条件として「学費が安い」がどうしても外せなかったため国立の大学の中から選ぶこととなりました。熟慮の結果、愛媛大学へ進学することに決め、30年以上住み慣れた関東を出て妻と共に無事愛媛県民になったというわけです。

大学に入ってから出来るだけ法律の講義を取りました。夜間主ですので一定程度昼間の講義も受けることができます。このシステムも活用し、昼間主でしか開講されていない講義や単位互換制度を利用して松大へ講義を受けに行ったりもしました。

大学では私と同じく社会人入試枠で入学してきた同

期生が数名おり、気の合う仲間として互いに励ましあったりしながら楽しい大学生活を送れました。私は年甲斐もなく現役生とも積極的にに関わり、いくつかのサークルにも入っていました。20歳近く離れてはいましたが、みんな仲良くしてくれたのでサークル活動にも全力で取り組むことができました。

ここまで小・中・高・専門・大学と振り返ってききましたが、あれだけ学校というものが嫌いだったにもかかわらず、やりたいことのために通った専門学校と大学は、自ら求めるものを学びに行くという点において明確な動機と目標があったため、通うのが楽しくて楽しくて仕方ありませんでした。これが専門学校と大学生活を豊かにできた大きな要因であると感じています。

その差は成績にも顕著に現れました。高校まではテストは30点取ればOK! それ以上は取っても無駄な点数! という考えでしたので、毎回見事なほどに赤点ギリギリでした。5段階評価では2が並び、10段階評価では3が並ぶ徹底ぶり。対して改めて大学の成績証明書を見返してみると、秀28・優14・良13・可7・不可0(計62科目)という我ながら結構頑張れたなという結果でした。高校までの友人は絶対に信じてくれないこと請け合いです(笑)。

大学生活が素晴らしいものになったもう一つの要因として、高校卒業後と専門学校卒業後の二度、社会に出た経験があったことだと感じています。デザイナー時代は終電まで仕事をし、食事・風呂を済ませて2時に眠りつくというローテーションを何年も繰り返していたからこそ、特に時間に関しては学びに時間を充てることができるということが、どれだけ幸せなことなのかを身をもって理解できていたからです。

私と同じ士業の後輩も先日こんなことを言っていました。「河村さんは社会人になってから大学に行かれたんですね。羨ましいなあ。僕も今だったら大学4年間をもっともっと密度の濃いものにできるのに」と。

星は夜毎指し示す あれほどに強く輝かしく 道を！
しかし、頭の上を示された道を知るものは少なく
たどるものはさらに少ない

〈紫堂恭子 作

「グラン・ローヴァ物語」(潮出版社)より〉

私の大好きな漫画の一節です。道を辿れたかどうかはわかりませんが、私はもしかしたら運よく頭上に輝く星に気づけたのかもしれません。

皆さんは大学時代、全力で走り切れましたか？ もし、今後の人生で頭上の星に気づくことがあれば、私の様に「学び戻る」選択肢も是非検討してみてください。

2019年卒業 森本 悠暉

[人文社会学科]

「良い雰囲気は良い結果をもたらす」と 気づいた大学生活

大学生活を綴る前になぜ私が愛媛大学を目指したかを簡単に記載したい。私は高校3年間、大阪府の高校で野球に没頭したが個人としてもチームとしても思うような成績を残すことができなかった。そこで私は大学でもう一度野球に向き合いたいと思い大学野球について調べ、国立大学で全日本大学野球選手権出場経験のある愛媛大学に進学を決めた。(勉強が辛すぎてセンター試験後に胃潰瘍に罹ったが……)

そんなこんなで大学生活がスタートし、念願だった硬式野球部に入部した。しかし、入部して1回生の間は怪我に苦しみ、試合出場どころか練習すらできない日々が続いた。私が大学で野球しかしていないようにここまですて書いたが、実は入学してすぐに法文学部サークルの法律相談部に入部している。週5日硬式野球部の活動があったので1回生の間は気分転換程度に法律相談部の活動に参加していた。法律相談部の同回生はたいがい兼部していたので部の運営に積極的に携われるものがおらず、上回生が引退した後は今後の活動方針を決めなければならなかった。今後の活動について以下の選択肢が上がった。

- 今まで通り活動する
- 集まるのはテスト勉強前だけで普段は活動しない
- 部を消滅させる

最後の選択肢には驚いたが同回生もあまり時間がとれないので部を消滅させる空気が流れていた。さすがにそれは許されないと思い、私が部長に就任し、これ

までどおり活動できるよう、また、部員のやる気を引き出せるよう活動することにした。

部員のやる気を引き出すに当たり討論大会(各大学の法学系サークルが運営し年2回、主催大学の教員が考えた議題を討論する大会)への参加が一番だと考えた私は、日々の活動で討論大会の議題について考える時間を設けた。活動が具体的になったからか、しばらくすると部の参加者は少しずつ増え、活動中積極的に発言する部員が増えた。



野球部卒業記念(前列一番右が筆者)

この頃、硬式野球部において試合に出られない選手の野球への取り組み態度が問題になった。どれだけ練習しようとチャンスが回ってこない現実にはやる気を失っていたのだ。チーム内で野球に対する温度差を解消すべく、全員野球を志し、野球技術に加え人間性が評価の対象となった。練習中、他の部員に対する気配りやミーティングでの発言内容などが積極的に評価されたおかげで少しずつ全員の野球態度が変わり始めたように感じた。

法律相談部においても硬式野球部においても言えることだが、部員全員が主体的に取り組むことで雰囲気非常に良くなり、それにより部のレベルが上がった。

結果的に法律相談部においては私が部長を務めた期間で多くの部員が討論大会に参加してくれたし、私が引退する前の最後の討論大会は同回生のみで参加し、兼部先の活動が忙しかった部員が立論を引き受けてくれた。硬式野球部において、私は公務員試験勉強であまり活動に参加できていなかったが、上回生が中心となりリーグ2位の成績を残した。

タイトルにあるように良い雰囲気は良い結果をもたらす。社会人になった今でもそのことは痛感しているし、私のような若手職員にできる一番の仕事は明るく良い雰囲気の職場を作ることではないだろうか。



第四十一回九州瀬戸内学生法律討論会

九州瀬戸内学生法律討論会(右が筆者)

愛媛大学法文学部同窓会へ御寄付いただきました皆様の御芳名一覧

(令和5年3月末現在)

愛媛大学法文学部同窓会への寄付のご協力に心より御礼申し上げます。御寄付いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここに御芳名を掲載させていただきます。(50音順・敬称略)

なお、御芳名の掲載については、同意をいただいた方のみとなっております。その他多数の皆様からの温かい御支援を頂戴し、深く感謝申し上げます。

【ア行】

赤瀬 晃也	穂岡 謙治	秋山 久恵	浅山 博志	安藤あさみ	井川ちづ子	壹岐 公洋	池川 孝文
池田 正幸	池田 実	石井 清司	伊地知玲子	石本 達也	伊勢元忠伸	伊藤ゆりか	井上 政清
今永 修	今村 威	岩城 博年	岩崎太久美	岩崎 裕重	上田 将輝	氏家 康二	宇治木大輔
宇都宮温子	宇都宮眞由美	榎本 健司	遠藤 佳春	大岩 義雄	太田 重明	大西 能成	大野 充彦
大平 昇	大藪 崇	遠賀 政臣	小笠原 均	岡田 禎之	岡本 英男	岡本美恵子	越智 翼

【カ行】

鹿島 勝	梶本 六夫	片岡 正雄	加藤あずさ	加藤 直也	加藤 昌	加藤 好文	門田 克也
門田 潔	門屋 一夫	金行 政実	鎌田 孝史	蒲池 正宏	蒲池 美鶴	上谷 景子	川内 博文
河上 幸市	河川 敏弘	河村 新吾	川本 清治	菊地 久男	菊地みのぶ	岸 武弘	北澤 卓
北野 芳樹	城戸 義文	刑部 八州男	吉良 厚子	工藤 香織	國枝みつよ	國久保貴子	久保チズエ
久保 泰敏	熊石 康生	蔵田 憲治	黒河シゲ子	黒田 潤二	黒田 彰三	小池 昭彦	高 暢
合田 千里	河内 泉	河野 佳奈	河野 純子	小崎 弥生	後藤 幹郎	小林 紀子	五味 俊一
近藤 中子							

【サ行】

佐伯 弘行	坂田 せい	坂本 聡	坂本 哲巳	坂元 陽介	佐々木乾二	佐々木宏二	佐々木珠希
佐谷 嘉美	佐藤 興治	佐藤 雅彦	佐野 章雲	澤井 達夫	塩見 裕司	茂川 卓司	重川 剛
重松 直江	篠浦ゆりか	信宮 俊紀	瀧川 武彦	清水 秀一	清水富美枝	下向井敏明	白井 瞳
杉野 洋介	杉本 英智	鈴木 大輔	角田 暁信	住田 啓子	清家 信孝	関谷 豊	仙波 秀一

【タ行】

田井野 勝	高須賀 敦	高須賀 亮	高杉 晃吉	高田 敬士	高田 禎子	高橋 孝伯	高橋 朋央
高橋 寛	田口 基文	竹内 譲二	竹上 嘉人	竹田 美喜	竹本 道代	田坂 君子	橘 健司
橘 齊	立上 良典	田鶴谷寛子	田中 義人	谷岡 利弘	玉井 周平	玉木長一郎	塚本 憲正
月原 信夫	津田 朋美	津村 晏宏	寺澤 徹哉	土岐 傑	土岐 節子	徳永 悌一	得能 修
豊澤 正則	鳥井 幸一	鳥生 勉歳					

【ナ行】

中居 義輝	永尾 真一	中口 勝雄	中島 邦雄	中西 龍太	中野 義夫	永松かおり	中村スミエ
中村裕二郎	成清 寿一	西上 恵子	西上 三鶴	西岡 秀記	西岡 倫弘	西川 恵三	西田 和真
西山 明香	縫部 高志	野口 裕久	野寄 明子	野田 勝美	野田 敏幸	乗松 眞二	

【ハ行】

橋本 吉博	畠中 節男	濱松 一良	林田 貴光	原田 英和	張本 雅宣	樋掛 誠也	日野 恵一
日野 増雄	兵頭 厚子	平野 嘉成	弘内日出雄	深坂 穰	福田 久保稔	藤井 啓文	藤田 育子
藤本 三佳	藤本 康城	藤脇 祐二	船田 義文	古田 陽子	平良 稔	保科 昇	細川 陽平
堀田 深山	本田 公子						

【マ行】

正岡 伸二	松浦 道明	松浦 泰史	松岡 久朗	松下美智子	松田 清	松田 三郎	松田 敏幸
松永 徹	松成 裕子	松本 長彦	松本 康照	三木真友子	光石 宏	光田 正	宮内 真理
宮川 晶子	宮下 春樹	宮原 美咲	宮本美登里	三好 輝子	村上 裕美	村上 和恵	森 健一
森 浩平	森 幸子	森 敏明	森實 聞三	森分 瑛美			

【ヤ行】

保田 和磨	安永 博邦	八塚 洋	矢野 和弘	山内 千代	山口 耕平	山口 里奈	山崎 薫
山下 奈美	山田 耕造	山田 幸博	山根 勝美	山根 淳一	山根 主税	山根 桃恵	山本 明美
山本 一義	山本 求	柚山 紀子	横川 修	吉本 政弘			

【ワ行】

若江美千子	脇 敏夫	和氣坂ハナミ	脇田 忠徳	渡部久仁子	渡部 浩三	渡部 剛	渡部 佳子
-------	------	--------	-------	-------	-------	------	-------

[2023.3.31現在]

1,505,000円

寄付者総数 320人 (内、匿名希望53人、掲載可267人)

[2022.3.31現在]

1,722,500円

寄付者総数 355人 (内、匿名希望60人、掲載可295人)

お詫びと訂正

前号「御寄付いただいた皆様の御芳名一覧」に下記の方々のお名前が掲載できておりませんでした。お詫びするとともに今号に御芳名を掲載させていただきます。

下向井敏明 様

橘 健司 様

田仲 憲治 様

垂水裕太郎 様

寄付金の払込時にお寄せいただいた 「応援メッセージ」をご紹介します。

文末に記載しているのは、英文字のイニシャルと卒業年(西暦)の下2桁です。
なお、73人の方からメッセージをいただきましたが、誌面の都合上、一部
のみのご紹介となることをお許しください。

- * 元気で勉学に励んでください。世のお役に立つ人になれますよう。 NT 70
- * いつも同窓会報を楽しみに読ませて頂いてます。今後の皆様のご活躍とご健康をお祈りします。 JK 12
- * 新型コロナに感染してました。夜の咳が2時間続く時もありましたが、元気になったので応援メッセージが書けました。人生は、山あり谷ありです。コロナに負けず前を向きましょう!! MM 92
- * コロナ3年目で在校生の学生生活は異次元で、かつて経験のない学園生活だと思います。 KT 78
- * コロナで思い描いていた大学生活ではないかもしれませんが、がんばってください。少しでも充実した日々になりますようお祈りいたします。 SN 04
- * コロナ感染収束の暁には、同窓、同期の皆様と元気で会いましょう。 SO 68
- * 激変する世の中、若い力をガムシヤに発揮して変革を! TI 85
- * 読書・旅・出会い。これらは若い皆さんを確実に成長させます。 HO 74
- * コロナ禍で大変な学生生活をしいられているでしょうが、一生で一番有意義な時を素晴らしい仲間とお過ごしください。 MK 83
- * 卒業するまでに、愛媛の各地を巡って愛媛の良いところを発見して、愛媛を愛する人になっていただきたい。 MT 68
- * 愛大合唱団で合唱の喜びを知り、現在(85歳)でも合唱活動を続けています。これまでベートーヴェンの「第九」を2度歌ってきました。私の最高の喜びは合唱です。生命ある限り歌い続けます。 MO 61
- * 恋に燃え 学問に燃え 飛躍する 今宵名月 伊予の学生 TS 74
- * 愛媛大学での学び、恩師、友人とのつながり、対話は、人生の支えの一つ一つとなっています。コロナ禍で研究も大変でしょうが、母校の益々の発展を応援しています。 MM 03

「会報及び同窓会に対するご意見・ご感想」でいただいたご意見について回答いたします。

Q&A

Q 沖縄支部をつくりたいのですが、どのようにメンバーをつのればよいでしょうか?

A 同窓会規約では「必要ある時は総会の決議により会員在住の地に支部を置くことができる。」と規定されていて、現在は関東、関西、広島、四国の4支部が設置されています。会員数の規模から見て、沖縄よりも九州支部が現実的だとは思いますが、それはともかく、支部の設置には、まずは中心になって活動できる「世話人会」を発足させるのが第一歩でしょう。そのメンバー募集の記事を会報やホームページに掲載することもできますので、具体的なことは本部事務局にご相談ください。ちなみに、支部規約や役員名簿、事業計画等を作成して同窓会本部に提出していただいたら、本部理事会の議を経て総会(3年に1度開催)で審議することになります。

Q 同窓会寄付の振替には、通信欄、払込者情報の記入が多いため、ゆうちょアプリが使えるのかよく分かりません。シンプルになれば手数料なしでも送れるので検討してください。

A 同窓会へご寄付いただき、誠にありがとうございます。ご記入いただいている情報のうち、通信欄については「応援メッセージ、匿名希望、ふるさと応援」がない場合には不要ですが、払込人住所氏名については、ご寄付いただいた方を記録し、お礼の品をお送りするとともに寄付者ご芳名一覧に掲載するために必要です。手数料をご負担いただくことになり、申し訳ありませんが、今後ともよろしく願います。なお、ゆうちょダイレクト又はゆうちょ通帳アプリ扱いをご利用になれば、月5回までは無料(月6回目以降:100円)でご送金になれます。その場合、「送金人」の住所・氏名は必ず、「通信文」の欄に卒業年、学科名を記入してください。また、会報に名前の掲載を希望しない方は「トクメイキボウ」と、寄付金の半額を支部応援にまわす場合は「〇〇シブオウエン」と記入してください。その他応援メッセージも記載していただけますが、全体で100文字以内(全角の数字・カタカナ・英大文字・数字・濁点・半濁点・スペースのみ可能)ですのでご注意ください。

Q 退職される先生方の最終講義の内容紹介があれば…と思います。遠方(県外)在勤・在住のため、最終講義を聴講することが難しいので、ご一考ください。

A 退職される教員の最終記念講義については、教員が所属する学会や実行委員会が主催するケースが多く、講義内容公表の可否についてはそれら団体又は当該教員が判断されます。同窓会として会報で紹介することの適否を含め、今後検討したいと思います。なお、最終講義の実施予定については法文学部ホームページの「トピックス」をご参照ください。

Q 同窓会提供講座「社会と人間」の中で気になる講座がありました。卒業生でも受講できる機会があれば…と少しうらやましかったです。

A 同窓会が提供している講座ですので、同窓生は無料で聴講できることになってはいますが、コロナの関係で、ここ数年は学外の方には聴講(一時は入構すら)していただけませんでした。しかし、対面授業が再開されたことから、2023年度からは可能になるかもしれません。詳細は、教育支援課法文学部チーム(TEL.089-927-9220)までお問い合わせください。

Q デジタル(e-mailなど)での送付はご検討頂けますか?

A 過去にも多くのご意見をいただいておりますが、同窓会では紙媒体での会報発行と併せ、PDFでも公開しています(PDFは同窓会のホームページからご覧いただけます。)し、LINEの友だちになっていただければ、もっと旬な話題も提供しています。

紙媒体は、大事な部分に線を引いたり書き込んだりすることができWeb媒体に比べて記憶に残りやすい点、モノとして手元に残るため、保存性・保管性が高い点、そしてWeb環境がない方やWebが不得意な方にも読んでいただける点などから、新聞や書籍と同様、Web媒体と共存するのが望ましいと考えています。とは言え、印刷費・発送費の節約は大切な課題ですので、今後さらに検討したいと思います。

愛大今昔 Vol.3

法文学部の歴史、建物配置図を通して

愛媛大学 総合情報メディアセンター 教育支援者 菊川 昭治
(1979年 文学科卒、1980年 法文学専攻科卒)

前前号、前号に引き続き、愛媛大学文京地区の変遷を追ってみたいと思います。

昭和50年から55年にかけては、私が学生として生活した期間であり、とても思い出があります。

文京3番地区では木造校舎が無くなり、第一、第二食堂が廃止され、大学会館（生協食堂等）ができあがった時期に当たり、周辺では松山赤十字病院（以下、日赤）が8階建てに大改築されましたが、現在（令和5年）では令和の大改修ですっかり様変わりして、当時の面影はありません。

その変遷を「愛媛大学概要」、「学生生活の手引」の表紙に使われている航空写真や配置図で巡ってみましょう。

写真⑬、⑭は、昭和52年度のもので少しだけ木造校舎があります。写真⑬では分かり難いですが、写真⑭の配置図と併せてご覧ください。

木造の建物として、①は部室、理髪室、売店、②はサークル練習室、③は第二学生食堂、④は大真館（お茶室？）、⑤は文化部部室、⑥は講堂で木造でした。

理髪室は丸坊主なら100円位で、とんでもなく安かった記憶があります。売店は小さな文房具屋さん、サークル練習室はギター部とか軽音学部とかが利用、第二学生食堂は、とても綺麗とは言えない環境で工学部の学生だらけでした。

物価を見ると昭和44年頃の学生食堂は、うどん25円、中華ソバ45円、定食60円、カレーライス60円だったのですが、昭和50年頃も大差なかったと記憶しています。

授業料は昭和50年度入学で年36,000円だったのですが、翌昭和51年度入学からは年96,000円に大幅な値上げになりました。

大真館、文化部部室、講堂については、殆ど記憶がありません。

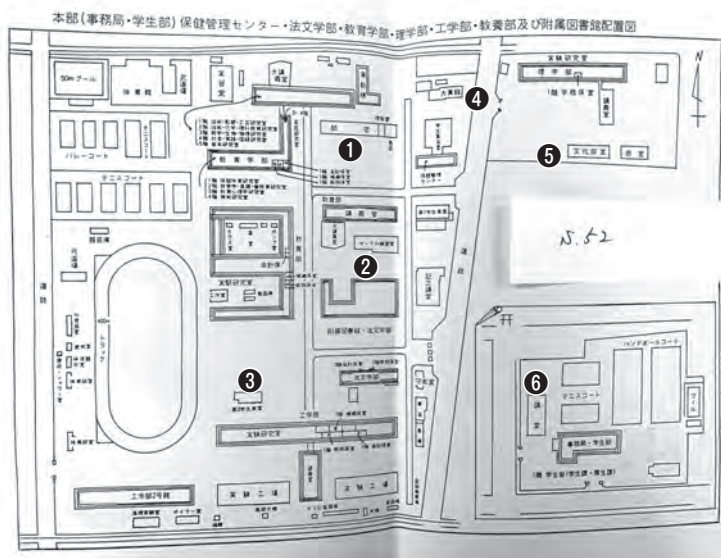
改築中の日赤は、絶賛工事中という所でしょうか。

写真⑮は、昭和55年度のものになり、文京地区の木造建築は、ほぼ駆逐されています。

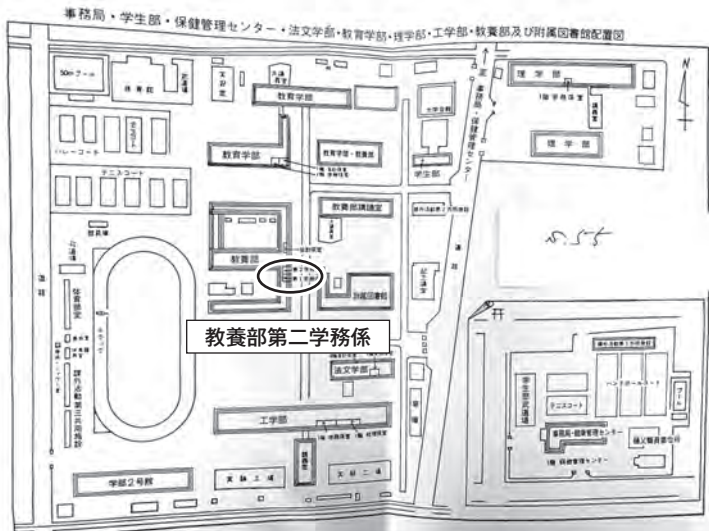
事務局敷地内の学生部（学生課、厚生課）が保健管理センターと入れ替えになり、敷地北側に課外活動第1共用施設が建設され、第一学生食堂が課外活動第2共用施設に改装、そして一番大きな



写真⑬



写真⑭



写真⑮

変化が大学会館(生協食堂)の新築になります。

大学生協(食堂云々ではなく生活協同組合への加入問題)の実現には、かなり擦った揉んだがりましたが、綺麗な食堂ができたことは良かったと記憶しています。第一学生食堂に比べて価格が上がったのは仕方ない面がありましたが、とてもまともな食事でした。

この昭和55年度は、私(菊川)が愛媛大学の職員になった年になります。国立大学だったので、国家公務員でした。最初の部署が教養部第二学務係で理系(教育理系、理学部、医学部、工学部、農学部)を担当していました。

昭和54年度(1979年1月)には、第1回の共通1次試験が実施されるなど、大きな変化もありましたが、法文学部にとっては、法学科(昭和54年度)、経済学科(昭和56年度)、文学科(昭和58年度)に夜間主コースが開設され学生定員が大幅に増加したことなどにより、法文学部本館が建設され、これまで図書館の3、4階にあった研究室が移転することとなりました。

写真⑳は、昭和58年度のもので法文学部講義棟の西に2号館、本館が建設されています。

写真㉑は昭和59年度のものですが、法文学部本館、2号館ができています。夜間主コースの授業に対応した形で第二体育館、照明付の全天候型テニスコート(ハード)も文京3番地区の北西に設置されました。

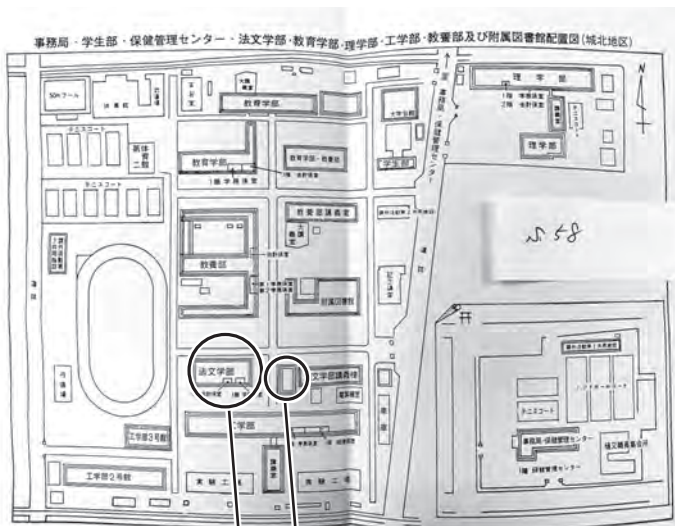


写真
⑳

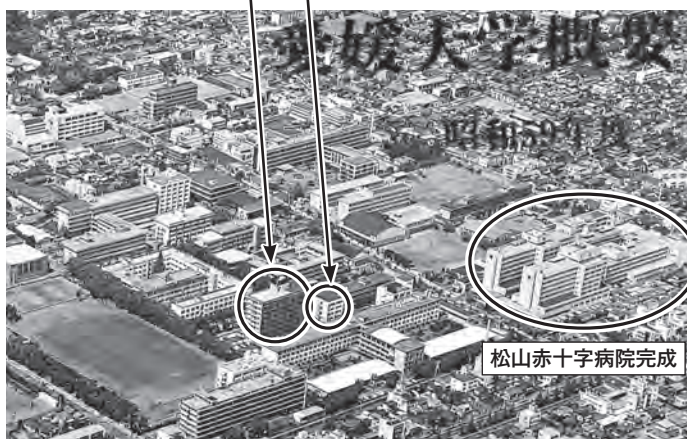
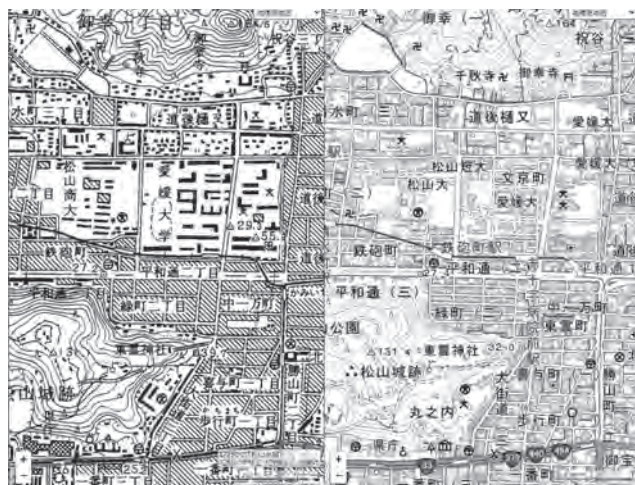


写真
㉑



そろそろ紙面も尽きてきたので、最後に地図(右が現在、左が昭和60年頃)と松山城上空からの航空写真で締めさせていただきます。

(この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」(©谷 謙二)により作成したものです。)

この後、平成5年頃までは航空写真が残っているのですが、配置図が手に入っていません。最近、イラスト系のマップが主流になってきていますが、今度は航空写真が減多にありません。

今後もネタを収集していきますので、何かの機会がありましたらご披露させていただければ幸いです。



写真
㉒

同窓会 提供講座『社会と人間』

報告

16年目を迎えた提供講座は、コロナ対策に十分留意しつつ、2022年10月5日から2023年2月1日まで水曜日の5限帯において、全て対面形式で開講されました。県を跨いでの移動も許され、愛媛県下、四国内、並びに東京から先生方をお迎えして行われました。久しぶりの対面講義でしたが、滞りなく、全15回を終えることができました。

ご担当教員の秋山英治先生、兼子純先生、高橋基泰先生、光信一宏先生並びにお手伝い頂いた学生の皆様へこの場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

また最終日の2月1日には、松本会長からアシスタントの学生3名へ感謝状と記念品を贈呈しました。なお、例年行われている講師陣との反省会・懇親会は今回も中止といたしました。

回	テ ー マ	担当日	担当講師名	現 職	回	テ ー マ	担当日	担当講師名	現 職
1	ガイダンス	10/5	松本 長彦	愛媛大学法文学部同窓会 会長/ 愛媛大学名誉教授	9	学芸員として働く	12/7	田中 謙	今治市教育委員会事務局宮窪地域教育課教育担当係長兼村上上海賊ミュージアム主事
2	警察官として働く	10/12	大野 雄毅	愛媛県伊予警察署 生活安全課生活安全主任	10	弁護士として働く	12/14	宇都宮員由美	かちまち法律事務所
3	放送業界で働く	10/19	細谷 佳菜	日本放送協会 クリエイターセンター(第1制作センター)ディレクター	11	IT業界で働く	12/21	伊藤 佑介	サイボウズ株式会社 カスタマー本部ローカルブランディング部プロジェクトマネージャー
4	脚本家という仕事	10/26	岸本 卓	脚本家	12	愛媛県庁で働く	1/11	西谷 幸真	愛媛県観光スポーツ文化部スポーツ局地域スポーツ課 主任
5	教育の現場で働く	11/2	植田 孝裕	西予市立野村中学校 教諭	13	小売業で働く	1/18	梅本 葉月	株式会社フジ・リテイリング 生鮮食品事業部 マルシェ事業運営部 係長
6	製造業で働く 働く女性の現在	11/9	谷水 恭子 岩村 菜央	三浦工業株式会社 人財統括部 統括部長 三浦工業株式会社 食機・メディカル設計管理課	14	金融業界で働く	1/25	栗崎寺正義 利田 柚紀	株式会社愛媛銀行 ソリューション営業部金融コンサルティング室 株式会社愛媛銀行 本店営業部
7	アナウンサーとして働く 働く女性の現在	11/16	後藤 珠希	オフィスラブリ フリーアナウンサー(司会・ナレーター)	15	ま と め	2/1	畠中 節男	愛媛大学法文学部同窓会 副会長/ 元四国アライアンス証券株式会社 監査役
8	真珠養殖業で 地元を盛り上げる	11/30	山下 奈美	山下真珠有限公司					

提供講座の受講生に対するアンケート結果

■講義は満足いくものでしたか■

満 足 65.0% やや満足 33.0%
やや不満 2.0% 不 満 0.0%

■先生方の話は、あなたのキャリアを考える上で参考になりましたか■

なった 73.0% 多少なった 27.0%
あまりならなかった 0.0% ならなかった 0.0%

■講義全体に対する感想を教えてください■

- ・実際に働いている人の話を聞くことが出来、学びの深い講義であった。

- ・毎回の講義を通して、自分を見つめ直すことが出来た。
- ・様々な業種の方のお話が聞けて、大学生活や就職活動の参考になった。
- ・実感が持てなかった就活について意識を向けることが出来た。
- ・就活における自己分析の大切さや、挑戦心を忘れないことなど、有意義なことが学べた。
- ・同じ学部出身の先輩方の現在の姿とこれまでの経歴を伺えて、勇気をいただいた。
- ・自分が関心のある分野が余り紹介されずに残念だった。

2023年度 提供講座開講のお知らせ

回	テ ー マ	担当日	担当講師名	現 職	回	テ ー マ	担当日	担当講師名	現 職
1	ガイダンス	10/4	松本 長彦	愛媛大学法文学部同窓会 会長/ 愛媛大学名誉教授	8	学芸員として働く	11/22	甲斐末希子	愛媛県歴史文化博物館 主任学芸員
2	製造業で働く 働く女性の現在	10/11	谷水 恭子 岩村 菜央	三浦工業株式会社 人財統括部 統括部長 三浦工業株式会社 食機・メディカル設計管理課	9	真珠養殖業で 地元を盛り上げる	12/6	山下 奈美	山下真珠有限公司
3	脚本家という仕事	10/18	岸本 卓	脚本家	10	警察官として働く	12/13	江藤 宏隆	愛媛県伊予警察署 生活安全課 課長
4	金融業界で働く	10/25	原田 智裕	伊予銀行法人コンサルティング部 所属	11	行政書士として働く	12/20	河村 佳和	行政書士 河村佳和事務所
5	放送業界で働く	11/1	細谷 佳菜	日本放送協会 クリエイターセンター(第1制作センター)ディレクター	12	愛媛県庁で働く	1/10	西谷 幸真	愛媛県観光スポーツ文化部 スポーツ局地域スポーツ課 主任
6	広告・印刷業界で働く	11/8	阿部 健典	セキ株式会社 事業企画営業二課	13	小売業で働く	1/17	梅本 葉月	株式会社フジ リテイリング 生鮮食品事業部 マルシェ事業 運営部 係長
7	教育の現場で働く	11/15	廣兼 朗子	済美高等学校教員(英語)	14	大学職員として働く	1/24	伊藤 剛大	愛媛大学研究支援部研究支援課 研究企画・戦略チーム
					15	ま と め	1/31	重松 直江	愛媛大学法文学部同窓会 副会長/ 重松直江税理士事務所

講師の方に感想をお聞きました！

第5回「教育の現場で働く」

西予市立野村中学校 教諭

植田 孝裕



「教員として働く」というテーマで、今年もお話をさせていただきました。初めは、私で大丈夫だろうかと不安でしたが、今となっては大変ありがたい機会であったと感謝の気持ちでいっぱいです。関係者の皆様、ありがとうございました。毎日中学生相手に授業をしますが、約200名の大人(大学生)相手にお話することはありませんので、いつもとは違う緊張がありました。

さて、私は大学を卒業し、公立中学校教員として働き始め、早7年目となりました。若輩者ながらに、試行錯誤しながら教員として働いてきた中で感じた、リアルな現場の様子をお伝えできたらと思い、話してみたいつもりです。

昨今、「ブラック企業」という言葉がインターネット上を中心によく見られるようになりました。その話題が上がると、セットのように「教員」という文字を見かけます。もちろん、時間的な拘束、体力的な負担から考えて納得する部分もありますが、実際の現場で働いている私は、「教員という仕事も悪くないぞ」というのが正直なところ。負の部分の先行してしまっている中で、少しでも教員として働くことの魅力を伝えられたらと思い、話をさせていただきました。

ですので、決して良いところだけでなく、「教員という仕事のおかしいところ」も盛り込みながら、話をしました。受講生の姿勢は大変積極的で、講義中の質問も真剣に考えている内容が多く、私としてもやりがいのある時間でした。教員という仕事は、世の中全員が出会ったことのある職業であることから、様々な意見が出たり、非難されたりすることもあります。どの仕事も大変である、お金を稼ぐことは簡単ではないというのは共通であるはず。決して教員が特別大変なのではありません。だからこそ、やりがいや収入、労働環境等についてよく考え、これから社会で活躍する大学生には職業選択をしてほしいと思いました。そのほんの一助になれたのなら、私としても嬉しく思います。

第8回「真珠養殖業で地元を盛り上げる」

山下真珠有限会社

山下 奈美

地元・宇和島へUターンし、家業である「真珠養殖」の仕事を始めたことをきっかけに、所属ゼミの先生よりお声がけいただき、お話をさせていただくことになりました。大変貴重な機会をいただきありがとうございました。



法文学部生にとって、水産業は就職対象となる職業ではないという心配もありながら、愛媛の主要産業であり、こんな仕事もあるんだ！と知ってもらうきっかけになればと思い、臨みました。また、学生時代、大学でのどんなことが就職活動に繋がるのか、不安だったことを思い出し、学生時代に力を入れて取り組んだことにも重点を置き、お話をしました。

当日はかなり緊張をしていましたが、みなさんの熱心に聞いてくれる姿勢、感想や質問を真剣に考え、送ってくれたことが大変心強かったですし、感銘を受けました。真珠に関する素朴な質問も多く、私自身の学びになることも多かった。特に印象に残っている質問は「学生時代も今も、アクティブに挑戦をする原動力は何？」でした。明確に考えたことがなく、考えた答えは「悔しさ」でした。自分が不甲斐ない「悔しさ」、誰かに敵わなかった「悔しさ」、そうした気持ちが私の原動力になっている、私自身にとっても、大切な気づきの機会となりました。

コロナ禍で、学生生活や就職活動の状況、社会全体のライフスタイルが変化する中で、やりたい事ができない苦しい時期がありながらも、工夫して色々な事に取り組んでいる学生さんにもいる事を知り、本当に感心致しました。しかし、様々な方面に気を遣わなければならない、考えすぎて一歩が踏み出せない、という悩みもやはり多かったように思います。誰かの為、社会の為に勉強したり、働いたり、行動をする事は素晴らしい事だと思いますが、まずは、少しでも興味を持った事柄があれば、今だからこそ、自分の為に、ぜひチャレンジしてもらいたいと思います。

何か少しでも動いてみるきっかけ、お悩みや不安が軽くなっていれば大変嬉しく思います。関係者の皆様、学生のみみなさんに感謝申し上げます。

駅弁大学

くぼてさんろく
永壽提三六 (ペンネーム)

1964年人文学科乙(経済学専攻) 卒



戦後、駅弁大学という言葉が生まれた。名付け親はジャーナリストで作家の大宅壮一である。昭和24年の学制改革で一挙に増えた新制国立大学は最寄りの駅で駅弁が売られていると揶揄した造語だった。

それまで大学といえば旧帝国大学とわずかな医科大、文理大しかなかったのが、一県一国立大学という触れ込みで一気に50校ほどが誕生したのを「ありふれた」「どこにでもある」と皮肉ったのである。

昭和35年、愛媛県松山市にあるその駅弁大学に私は通い始めた。福岡県の東南端の町から鉄道、船、鉄道を乗り継いでいく学校を選んだ訳は、早く言えば分相応。学力との釣り合いだった。

卒業した福岡県立築上中部高校は、前身が旧制中学校の歴史と伝統のある学校で、同期生の中には東京大学や九州大学など旧帝大に進んだ者もあり、勉学の環境は悪くはなかった。

しかし、部活の柔道と百姓仕事の手伝いを口実に、ラジオから流れる受験講座を予守歌にして毎夜居眠っていた者に、受かる大学は自ずと限られていた。親元を離れて、親にあまり負担をかけない国立大という選択肢の〈網〉にかかったのが松山の駅弁大学だったのである。

愛媛大学文学部人文学科乙(経済学専攻)。校舎は、窓ガラスに旧制松山高等学校の校章がそのままの木造二階建て。最初の2年間バンカラの気風が残っていた学生寮で出始めたインスタントラーメンをすすり、酒を飲み、シケモクに木綿針を刺して煙草にむせながら寮歌を歌った毎日。

長崎出身で国文のY君とNHK松山放送局報道部で外勤記者からの原稿を電話で受けるアルバイトを続けたが、盆と正月はY君と交代で休み、田舎に帰省した。

朝、松山の市街地から離れた堀江港からフェリーに

乗って広島県の仁方に渡り、呉線経由で広島駅にはちょうど腹が減るころに到着。窓越しに駅弁と陶器に入ったお茶を買い、パクつくのがいつものパターンだった。他にもルートはあったが、父が国鉄職員で鉄道が安かったから。

もう60年以上も昔の話だが、今の「駅弁大学」を調べてみると、これが意外に面白い。

東京一極集中の課題解消は、地方の創生・復活とセットでなければ実現しないが、そこに大きく噛みこんできているのが地域の〈知と人材の集積〉といわれる国立大学なのである。

愛媛大学は地元自治体や企業と連携して「一般社団法人えひめベンチャー支援機構」をつくり、地場の製紙工業や養殖漁業など特性、ニーズに合ったイノベーションに力を発揮している。他にも農学を基盤に先端科学研究を進める信州大学や、平和共生コースを設けて世界に発信する広島大学など、数えあげればきりが無い。

旧帝大系の大学や有名私立大学も負けじと次々、地方にキャンパスや実験地を設けて研究、地域連携を図っている。

大宅壮一が揶揄した「どこにでもある」駅弁大学が、「どこにでもあるからこそ」の特性を生かす逆転の発想で地方創生だけでなく、にっぽん丸再生の力強いエンジンになりつつある。

OBとしては何とも誇らしい。駅弁大学、上等じゃないか。

橋本吉博

神戸新聞社に編集記者として就職、定年退職後は関連のカルチャーセンターの講師をしたり、20年前からエッセイの仲間と同人誌を発行、売上収益金を世界各地の災害地復興、ラオスの教育支援を続けているNPOへ寄付する活動をしている。本稿は同人誌「雪中華」に載せたエッセイ。

愛媛大学校友会をご存じですか？

愛媛大学校友会はすべての学部を根を越えて組織された団体で、同窓生をはじめ、学生及びその保護者、現職及び退職の教職員を会員として、2004年に設立されました。

校友会は、①学生サークルへの援助 ②就職活動の支援 ③留学渡航費の支援 ④学生図書への寄贈 ⑤入学生・卒業生への記念品贈呈 ⑥子規俳句カレンダーの作成 など、主に学生支援事業を行っています。

また、同窓生が主体となって組織された首都圏支部・近畿支部・中国支部では、講演会や懇親会を開催するなど、会員相互の交流を盛んに行っています。

同窓生の皆さんは既に校友会会員ですので、会費等の負担はありませんが、会員情報のご登録がないと大学の近況や校友会報の送付、校友会イベントのご案内が出来ません。是非、QRコードからご登録いただき、校友会活動を知って触れていただければ幸いです。

〈愛媛大学校友会事務局〉 <https://koyu.ehime-u.jp/>
〒790-8577 松山市文京町3番 校友会館2F
TEL:089-927-8610 E-mail:office@koyu.ehime-u.jp



愛媛大学弓道部



今回は、高校生が大学生になったらやりたい部活として人気の高い弓道部です。

お話は主将の久保裕雅さん、副主将の藤原理久さん、同じく田村真菜さんにお伺いしました。弓道部の顧問は真鍋郁代先生、監督はOBの宮内師範です。愛大弓道部は「凌駕」をテーマに日々各人の目指す「弓道」を実践しており、昨年度は6月に男子が全日本ベスト8、女子は2月に中国四国大会で優勝という輝かしい成績を納めています。

練習日は月水金の課外、午後6時から9時まで。まずは、整列して神前礼拝の後、道場の掃除です。白い胴衣に黒の袴、真っ白の足袋に身を包み、キビキビと道場を清める姿は、実に美しく清々しいものです。その後ストレッチに始まり、各自20本の矢を射、記録をとった後は、夫々が思い思いのメニューをこなします。28メートル先にある7つの的をめがけて静かに矢を放つ姿は神々しくさえあります。しかしながら、初めから技術を追求するのではなく、礼儀、姿勢、精神性を十分に学んで、始めて弓と矢を持ち、的を目標けることができるのだそうです。

部員の方に弓道を選んだ理由を尋ねてみました。元々武道が好きだったが、剣道や柔道といったポピュラーなもの以外をやりたいかった、高校時代から弓道をやっていた。美しく内に秘めた気高さに憧れていた、弓道経験者の母親の勧めで、等々。共通して言えるのは、所作の凛とした美しさ、他人と争うのではなく、的と自分自身が織り成す精神世界、そして精神性の高さ、ではないでしょうか。

さて、日頃の熱心な練習、心身の鍛錬の成果は試合で遺憾なく発揮されます。その試合は多いときで年に10試合。新人戦や中国四国大学弓道選手権大会などです。特に中国四国大学弓道選手権大会に優勝すると、

11月下旬に伊勢神宮弓道場で開催される、全日本学生弓道王座決定戦の出場権を手にすることが出来るので、気合いも入ろうと言うものです。合宿もあります。コロナ感染症の流行のため様々なことが制限されていましたが、今年漸く2泊3日の合宿が再開され、小豆島の弓道場で行われることになりました。

ところで、50年あまり前の弓道部OBの女性にお話を伺うことが出来たので、簡単に紹介しましょう。当時、部員は各学年10名ほど。大学内の弓道場での練習は勿論のこと、合宿もありましたが、それは小豆島町ではなく、堀之内の弓道場だったそうです。1年生は、とにかく初段に合格するために練習、練習、練習。このOBの方は細身だったため、弓を引くのに一苦労した、弓返しの技術は結局習得できなかった、と残念がっておられました。お宅には胴衣を着て弓を引く若き日の美しく、凛とした（元々美人です）写真が飾ってあり、とても印象的でした。

最後に「弓」「矢」「的」を使った、言葉、諺を紹介して締めくりたいと思います。結構たくさんあり、面白いですよ。

「弓」

- 弓手（ゆんで）。弓を持つ方の手、すなわち左の手。
- 対義語：馬手（めて）

「矢」

- 一矢を報いる ●白羽の矢が立つ ●矢面に立つ
- 矢の催促 ●光陰矢の如し

「的」

- 標的・目的・的中
- 凶星（弓道の的の中心の黒い点は「凶星」と言い、そこから物事の核心のことを「凶星」と言います）

（取材：和氣坂ハナミ・廣田 章子・村上 和恵）

落語研究会 解散 コロナ影響

第22号（2018年9月発行）で紹介した愛媛大学落語研究会が解散しました。長引くコロナ禍で入学式が中止され、授業もオンラインに切り替わり、イベントもなくなったため、勧誘に繋げることができなかった、とのことです。

（令和5年6月5日付け愛媛新聞より）



法文学部同窓会 学生アンバサダー

2023年度

メンバー紹介



今年度から発足した学生アンバサダー

学生らしいフレッシュな記事をお届けします！



鳥井 人文学コース4回生

好きな学食のメニュー：醤油ラーメン

大学内でお気に入りの場所：愛大ミュージアム

こんな大学生活：野球や同じ学部の子と海によく行っています

行ってみたい所：屋久島

残りの大学生活でしたいこと：愛南町に行くこと

こだわり：自炊を心掛ける

一言：残りの大学生活いろんなことに挑戦したいです！



清水 法政コース2回生

好きな学食のメニュー：ヤンニョムチキン

大学内でお気に入りの場所：共通講義棟A

行ってみたい場所：サントリーニ島

こんな大学生活：笑って食べて寝ての繰り返しです！

残りの大学生活でしたいこと：留学

こだわり：レジでもたつきたくないから

現金は使わないこと

一言：皆様に「今」の大学生活をお伝えできるよう頑張ります！



大野 法政コース3回生

好きな学食のメニュー：マンゴープリン

大学内でお気に入りの場所：図書館

行ってみたい所：ルーブル美術館

こんな大学生活：単位のこと頭がいっぱいの生活

残りの大学生活でしたいこと：たくさん本を読む

こだわり：お風呂で湯船に浸かるときは電気を消す

一言：同窓会公式LINEも頑張ってるので是非見てください♪



岡本 人文学コース3回生

好きな学食のメニュー：冷奴、サーモンユッケ丼

大学内でお気に入りの場所：実験室

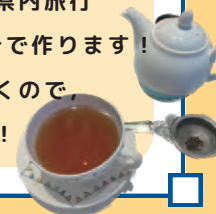
こんな大学生活：暇があったらゼミの実験室に行ってお作業したりみんなと話したりしてます！

行ってみたい所：バルト三国とフランス

残りの大学生活でしたいこと：愛媛県内旅行

こだわり：紅茶が好きなのでチャイは自分で作ります！

一言：これからどんどん活動していくので、その様子を見守ってください！



愛媛大学ミュージアム 吉田先生インタビュー

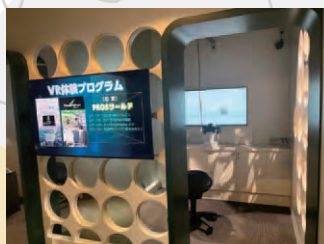
愛媛大学の「今」をお伝えするために愛媛大学ミュージアムへ行ってきました！法文学部で考古学関連の授業も担当されている吉田広先生に、研究内容やミュージアムでのお仕事についてインタビューさせていただきました。



theme

愛媛大学ミュージアム
埋蔵文化財調査室
吉田 広教授

まずはミュージアムを案内してくださいました



アンバサダー：先生の研究テーマを教えてください。

吉田先生：一番の研究テーマは弥生時代の青銅器です。この剣の形をした青銅器は平形銅剣といい、理学部横のセブンイレブンの向こうのあたりから出土した8本のうちの1本です。

アンバサダー：平形銅剣に柄がないのはなぜですか？

吉田先生：お祭り用に使う青銅器だからです。形はそれなりに強そうに見えますが、横から見てみてください。ものすごく薄いのに加えて先端の刃先は面になっていますから、この剣は武器としては使えません。このことから、平形銅剣はお祭りで使われていたものだといえます。お祭り用青銅器の形は愛媛・香川では銅剣ですが、近畿では銅鐸、九州では銅矛といったように、地域ブロックによって異なります。

愛媛大学ミュージアムでは愛媛大学の先生方がそれぞれの研究成果を持ち寄って展示しています。法文学部の私たちは、特に理系の学部でどんなことを研究しているのか詳しくなかったのですが、VR体験ができるコーナーや、昆虫の生態についての解説コーナーがあり、同じ愛媛大学でどんな研究をしているのかを知ることができます。昆虫の擬態を紹介するコーナーには、マダラチョウに擬態したアゲハチョウや、逆さにするとフクロウに見えるフクロウチョウなど面白い展示がたくさんありました。

Question



正面

横



大学のすぐそばで出土した
平形銅剣



Q ミュージアムの職員であり、教授でもある吉田先生の一日のお仕事内容について教えてください。

A 博物館は基本的にお客様仕事なので、受付で対応できないことや団体での来館者に案内を行うために、基本はミュージアムにいます。それ以外の時間は、埋蔵文化財調査室に行って発掘したものの整理をしたり、研究室で研究や授業の準備を行うなど、一日の間で3箇所を歩き来して仕事をしています。

Q 今まで実施してきたイベントのなかで一番印象に残っているものはなんですか？

A 考古学の研究をしているので、やはり考古学に関する展示でしょうか。その他であれば、毎回昆虫展は面白いですね。来館者が多く、子供たちやオープンキャンパスの高校生でにぎわいます。また、開館当初の恐竜展は毎日100名以上の来館者がいました。コロナ禍で休館していたこともあり、来館者が減ったままですから、面白い展示をすることで来館者数が増えるといいなと思っています。

今後の展示

10月2日より吉田先生が主担当の「文京遺跡の分銅形土製品に関する展示」が始まります。

ミュージアムの企画や展示についての最新情報は、ホームページで随時公開されているので、ぜひチェックしてみてください。

インタビュー：岡本
撮影・誌面制作：大野

研究室紹介

社会科学講座

太田響子准教授

行政学

Q：先生のご専門について教えてください。

A：政治学の一分野である行政学・地方自治論という分野を専門にしています。制度がどうなっているのかということだけではなく、行政組織や公務員の方々の実態がどの様に動いているかということに関心を置き、その実態を把握し観察することに主眼を置いています。さらに、行政と関わる色々な社会、企業、地域の市民も幅広く対象にすることがあります。

Q：実際に出向かれたりするのですか。

A：私の現在の研究テーマとしては大きく二つあります。一つは防災や危機管理についてです。近年東日本大震災や西日本豪雨などの大きな自然災害がありましたが、災害が起きた時、市町村や県、消防や警察あるいは省庁の出先機関など色々な関係者が対応します。しかし一口に行政と言っても、例えば県と市町村とは別の組織ですので、これらの連携が上手くいかない場合もあります。この点を実態も含めて研究しています。最近南海トラフ地震の被災が予想される自治体の現地調査も行い、甚大な津波災害が予想されている自治体が、限られた予算のなかで知恵を絞りながらどの様に対策を行っているのかについて調べています。



伊勢市の田んぼにたたずむ津波避難タワー

もう一つは、愛媛県に来てから広げている研究テーマで、もう少し地域に根差した研究です。自治体は地域の産業や移住政策などの問題を持続可能な形で解決しようと取り組んでいますが、市役所だけではこれらの問題解決が難しいので、地域住民や地域の企業などと連携しながら進めて行くことになります。この様な問題解決のプロセスを補助金や人的交流の側面から分析するもので、これも愛媛県内の自治体を調査しています。

また、自治体から仕事を依頼されることもあり、最近では愛媛県で行われている行革甲子園という全国の市町村の先進的な政策コンペの審査員もやりました。

Q：先生のゼミでは、主にどのような活動をなされていますか。

A：ゼミは基本的に輪読をして様々な文献を読んでいくのですが、公務員志望の学生がゼミ生には多くいます。ゼミで扱う文献は狭い意味での行政の話だけでなく、広く行政や

シリーズ第11回となる今回も、前号でインタビューした先生から「友達の輪」式のご紹介を受け、寄稿していただきました。

政治と社会の関わりや、国内外の社会課題に関するものを幅広く読んでいます。ただ、座学の勉強だけでなく現場に出て社会や行政の実態を体感してもらうことも含めてゼミと考えているので、なるべく機会を作ってフィールドワークという形で出かけていこうとしています。

Q：印象に残ったフィールドワーク先などありますか。

A：本格的にゼミを持ったのが2019年頃からですが、フィールドワークの計画を立てた時期にコロナが始まりました。それから行きたくても行けないという状況が続く中で、ギリギリ日帰りで大洲市に行くこともありました。去年2022年の夏は本格的なフィールドワークが許されたので、西条市の方で二泊三日みっちりで行いました。市の移住促進政策や、市役所とコミュニティビジネスの協働プロジェクトについてリサーチするためです。例えば、外国人労働者の方々との交流の場を作るベトナム料理店のプロジェクトの関係者や、伝統的な西条まつりの提灯や山車の装飾品を作る職人さん達を支援したり、観光体験を企画する事業を立ち上げた方にもお話を伺いました。夜はみんなでバーベキューを楽しみました。ゼミ生は、ヒアリングの質問票の準備から、それに対してどのような回答が得られ、自分がどの様に考察したかをグループワークで行い、最終日にプレゼンテーションをするといった結構ハードなフィールドワークでした。この様なことを昨年行えたことは本当に良かったです。



西条市でのゼミ・フィールドワークの様子

Q：コロナ禍での影響は大きかったですね。

A：オンラインが導入され便利になった面もちろんありますが、やはり社会科学は社会と関わってこそその学びという一面もあるので、現場の職員さん達がどういう課題を抱えてどの様な工夫をしているのか、という生の声を聴いたり、実際の街を歩いて課題を感じ取ったりすることが学びにとって重要と再確認しました。教員は準備のほうが大変ですが、毎年やれば学生にもノウハウが蓄積していくと期待しています。

Q：ありがとうございます。ここからは太田先生個人についてお聞かせください。愛媛県もしくは愛媛大学の第一印象は如何でしょう。

A：私は埼玉県出身で愛媛大学に着任する前は関東を出たことがなかったので、四国に住むということが目新しかったです。旅行も好きで、愛媛を中心にした西日本方面の行動範囲が広がっているのが楽しいです。愛媛大学の印象としては、家から職場まで近く暮らしやすく、良い塩梅にのんびりした雰囲気があります。愛媛のお酒も大好きです。

学生については、比較的大人しい子が多いですが、素直で優秀です。しかしながら、折角大学生ですので、もっと冒険心を持って色々チャレンジしてみてもいいかなと思う面もあります。

Q：卒業生へのメッセージなどは。

A：法文学部の卒業生は特に母校愛が強いと聞いているので、ぜひ大学のことを思い出して何らかの形で繋がっていたけるといいなと思います。

人文学講座

山本與志隆教授

哲学



Q：先生のご専門について教えてください。

A：所謂哲学、特に現代ドイツの現象学や解釈学を中心に研究し、教えています。具体的に言えば、現象学ではフッサールやハイデガー、解釈学ではデルタイやガダマーなどです。

Q：哲学の道をいつ頃志されたのですか。

A：私が高校生の頃は、法学部を志望し、そこで学んだことを活かして身を立てて行こうと考えていました。しかしながら、幸か不幸か、大学受験に失敗しまして、予備校に通うことになりました。その時に予備校で教鞭を取られていた英語の先生と倫理の先生が共に哲学に関心を持たれていました。その先生方が授業で仰るには、法学部や経済学部に進んだ人は、確かに自分が生きている間に自分が学んだことによって、経済的にも社会的にも自立し良い地位と収入を得られる可能性が高い、反面文学部、とりわけ哲学はそれらを望めない最たるものだ、と。しかし、現実の生活の中では裕福になる可能性は低く、同時代の人々に貢献することが少ないかもしれないが、哲学を学ぶ者は、今日の目の前の事柄や人々に関わることでなく、人類の歴史の始まりから、現在を経て、この先へと繋がって行く我々の世界の根本にある真理を攫める、と。現実の生活を攫むか、もしくは世界の真理を攫むか、どちらが望みですかと言われて、私は「世界の真理を攫みたい」と考えてしまいました。これが私の哲学との出会いであり、現在の私に繋がっています。

Q：先生と云えば、講義のアイスブレイクが印象的ですが、着任当時から始められていたのですか。

A：いや最初の内は緊張感もあり、授業内容を伝えることで精一杯でした。ですが、教壇に立つ年数が、一年、二年と過ぎて行くうちに少し余裕が出るとともに「笑いを取りたい」という欲も出てきて、現在の形になって行きました。

Q：ゼミの活動についてお聞きます。山本ゼミ独自のものなどがありますか。

A：哲学をやるということは、根本的に自分で考えるということがベースにありますので、学生の自主性を出来るだけ尊重するようにしています。ですので、学生一人一人が関心のある哲学の問題については、一人で考えることに加えて、例えば、文献の読み方や解釈の助けになるように学生同士で読書会や勉強会などを自主的に行える空気を作っています。

これは山本ゼミ独自と言うほどではないですが、特徴の一つだと思います。もう一つ言えば、指導学生との距離を出来るだけ近い形で保つようにしています。例えば、コンパやゼミ旅行などの集まりを定期的に開催し、その締めとしてナポレオンという少し頭を使うカードゲームを行っています。こちらは山本ゼミの伝統と云えるもので、韓国や中国の留学生あるいは院生なども交えて、白熱した戦いを繰り広げています。

Q：コロナでそういったゼミ活動で制限された部分は多かったのではないのでしょうか。

A：学生との距離の近さが山本ゼミの特徴ですが、コロナによって講義も遠隔になり、学生が哲学資料室に来ることも不可能になって、読書会やコンパも出来ませんでした。そういったことで特徴である近さを実現することが出来なくなり、苦労しました。

Q：長い間愛媛大学で教鞭を取られていますが、学生の気風など変化を感じられていますか。

A：今も昔も愛媛大学の学生は真面目だというのは変わりません。ただ昔の学生の中には「ひたすら哲学」といった人もいて、とすると激しい議論になったりすることもありました。それくらい哲学に没頭するような学生は、前よりは少なくなったかもしれませんが。

Q：愛媛県や大学の印象はいかがですか。

A：愛媛県、と言うか、松山のということになると思いますが、着任して間もない頃、夜間主の7時間目の授業を終えて帰ろうと、西門を出ようとしたとき、前を行く二人の女子学生が「腹減りけりー!」「腹減りけりー!」と結構な声で呼び掛け合っているのを耳にしました。さすが「俳都」松山、こんなところにも切れ字を使うんだ、と感心しました。

Q：趣味は何ですか。

A：例えば、読書などは趣味に入らないと思うので、敢えて言うとしたら、競馬でしょうか。時々万馬券を取って祝勝会を開き、ナポレオンで締めて学生との交流を図っています。

Q：卒業生へのメッセージをお願いします。

A：一般的に哲学を始め、大学で学んだことなど社会では役には立たない、就職活動などで活かす場面が少ないと思われるかも知れませんが。実践的な業務を熟することが仕事だと考えるとその通りとも言えますが、実際にはそれぞれの立場によって、改善して向上していくためには、何かしらを考えなければならないはずで、これも含めて仕事だとすると、まさに考えるということ学ぶ根本は哲学であり、大学の学びです。そうすると、哲学を専攻する人も、そうでない人も、絶対に生きていく上や仕事をする事においても哲学を学んで役に立たないということはない。是非今一度、皆さんも哲学を顧みて下さい。このことを改めて申し上げたいと思います。



Career Report

元高等学校教員・民生児童委員・保護司

川原 學

[1973年卒業 法学科]



ささやかな社会奉仕・社会貢献！

○はじめに

同窓会員の皆様、それぞれの分野でご活躍のことと存じます。会報に寄稿を、との依頼を受けましたので、私の活動を報告させていただきます。学部を卒業して、3月末で50年が経過し、同時に教員生活を終えました。



卒業後1年は、義兄経営の医療器械店を手伝い、1年後に新居浜の高校に非常勤講師で採用され、49年間教員として働きました。余談ですが、この年は、県立松山西高校（現在は、松山西中等教育学校）が創設され、また、第一養護学校（現、しげのぶ特別支援学校）に高等部が新設されるという幸運（採用枠増！）に恵まれ、社会科（現、地歴・公民科）の教員生活をスタートさせました。

60歳で公立高校を退職し、その後、私学で12年間勤めました。

○民生児童委員として

定年退職の直前に近所の方から薦められ、民生児童委員を引き受け、現在に至っております。

民生児童委員は、厚生労働大臣と松山市長の委嘱を受けて活動し、松山社会福祉協議会や地域包括支援センターの方たちのご指導を受けながら、主に、高齢（もちろん私も）の方たちの生活支援に従事しています。

最近は、“フレイル”というキーワードで活動しております。フレイルは、虚弱等と訳され、加齢とともに、自立が困難に、また、介護が必要になってきます。日常生活を見直して、健康状態を維持しよう、という考え方

です。月1回、簡単なゲームや体操等を集会所・公園で行っております。

○保護司として

先輩民生委員の薦めで「保護司」を引き受けて、活動しております。7年経ちました。任用には、かなり、厳格な審査があると聞いておりますが、私の「〇〇癖の悪さ」は、露見していなかったようです。保護司は、法務大臣の委嘱で、非常勤の国家公務員との位置づけです。

保護司を引き受けて最初に、対象者(罪を犯したり、非行をした人)から教わった言葉、「短気、満期、辛抱、仮釈」を紹介します。矯正施設に収容されて、刑務官などの指導に短気を起こすと、刑期一杯務めなくてはいけなくなるが、辛抱してまじめに務めると仮釈放が得られる、ということでしょうか。

保護司の紹介です。

① 保護司法第1条では、保護司の使命が以下のように掲げられています。

「保護司は、社会奉仕の精神をもって、犯罪をした者の改善及び更生を助けるとともに、犯罪の予防のため世論の啓発に努め、もつて地域社会の浄化をはかり、個人及び公共の福祉に寄与することを、その使命とする」。

② 具体的な活動

1（保護観察）対象者と定期的に面接を行い、更生を図るための約束事（遵守事項）を守るよう指導するとともに、生活上の助言や就労の手助けを行います。

上記の「辛抱、仮釈」ですが、懲役2年のところ、3ヶ月前に釈放されたとなると、残す3ヶ月が保護観察期間ということです。

2（生活環境の調整）少年院や刑務所に収容されている人が、釈放後にスムーズに社会復帰できるよう、釈放後の帰住予定地（私の経験では、親でした）の調査、引受人との話し合い等を行い、必要な受け入れ態勢を整えます。

3（実際の担当例）

窃盗、性犯罪、対教師暴力、特殊詐欺のうけ子等です。

○おわりに

いずれも、ちょっとしたボランティアです。皆さんも、いろいろなことにチャレンジしてみてください。

出願期間
(予定)

○教養学部・大学院（修士選科生・修士科目生）

10月入学：2023年6月10日～2023年9月12日

4月入学：2023年11月26日～2024年3月12日

○大学院：博士全科生・修士全科生

(年1回募集・選考試験あり)

8月15日～8月25日

多彩な放送授業 約300科目。1科目からでも学べます。

*資料を無料で差し上げております。お気軽に愛媛学習センターにご請求ください。



放送大学

放送大学

検索

〒790-0826 松山市文京町3番

放送大学愛媛学習センター

TEL 089-923-8544

URL www.sc.ouj.ac.jp/center/ehime/

愛媛県以外の方は、
本部へお問い合わせください。

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11

放送大学 本部

TEL 043-276-5111 (総合受付) URL www.ouj.ac.jp

Career Report

Mazars Australia
オーストラリア公認会計士 (CPA Australia)

八塚 友紀

[2012年卒業 総合政策学科]



公認会計士として海外で働く



公認会計士の証書授与式

オーストラリアに住むようになってからもう10年が経ちました。法システムが違うために大学の学位がそのままでは評価されず、こちらでロースクールに進学し法学を学び直す道もあったのですが、結局専門学校で会計学と税法を1から学ぶことにし、約5年かかりましたが2022年の7月に公認会計士の資格を取ることもできました。

最初に就職したのは個人税務に特化したアメリカ系会計会社であるH&R Blockでした。社会一般に有料の税法講義を行い、成績優良者の中からリクルートするという珍しい会社であったため、専門学校在学中の私でも就職することができました。

約4年ほどTax Consultantとして勤め、その間に税法講義を持たせてもらえる機会にも恵まれました。拙い英語ながらもネイティブの方々に教える経験を得られたおかげで、誰にでも物怖じせず英語を話す度胸ができました。生徒からの評判が良かったおかげで各事務所のマネージャー達に対しても税法改正のプレゼンテーションをする機会を頂いたのも良い思い出です。

大学時代に法律相談部で法学の講義をおこなったり、全日本学生法律討論会に論者として出場した経験があったからこそチャレンジできたことだったと思います。

その後小さな会計会社に転職して企業税務全般を学んだのち、Mazars Australiaに入社しました。

弊社は1945年にロバート・マザーがフランスのルーアンに最初の事務所を設立してから成長を続け、現在では日本を含む95以上の国と地域において展開している国際的な会計会社です。

私が所属するBusiness Advisoryは、企業の日常的な会計業務と税務業務のサポートを中心にした部門です。私が主に担当しているクライアントは教育業界の企業で、隔週で行われるCFO (最高財務責任者) との会議においてビジネスが直面している問題を共有して頂き、それらへの解決策の提案をさせて頂いています。

常に新しい問題に直面する中で、各方面のエキスパートと協力しながらクライアントと共に成長していけることにやりがいを感じています。法的な影響を考慮しなければならない局面も多く、大学で学んだ法学の知識は確実に活かされていると感じています。

色々なバックグラウンドを持った同僚と働けるのも海外ならではの魅力かもしれません。私のチームだけでも、イタリア、フランス、レバノン、インド、韓国、フィリピン、中国、インド、マレーシア、インドネシアの方々がいます。海外で育ってオーストラリアに来た方々とこちらで生まれ育った方々が半分半分で、多様な文化や価値観の違いに触れる機会が多くあります。お互いの違いを尊重しながら一緒に仕事をしていく経験を楽しませて頂いています。

シドニーのオフィスには私以外の日本人は働いていないため、色々な方から日本について質問されることが多く、常に自分のルーツについて考えさせられています。身近にいる日本人が私だけという状態では私のイメージが即日本人のイメージになってしまうため、日本人として恥ずかしくないように行動するようにしています。これはアメリカ育ちの日系人の方に教わったことで、常に心掛けるようにしています。

そのおかげかどうかは分かりませんが、今年に入ってから公認会計士協会の地域会にもお誘い頂き、様々な会社に勤めるプロフェッショナルと一緒に大学生や若手の公認会計士の人脈作りやキャリアプランをサポートするイベントを企画運営するお手伝いをさせて頂いています。

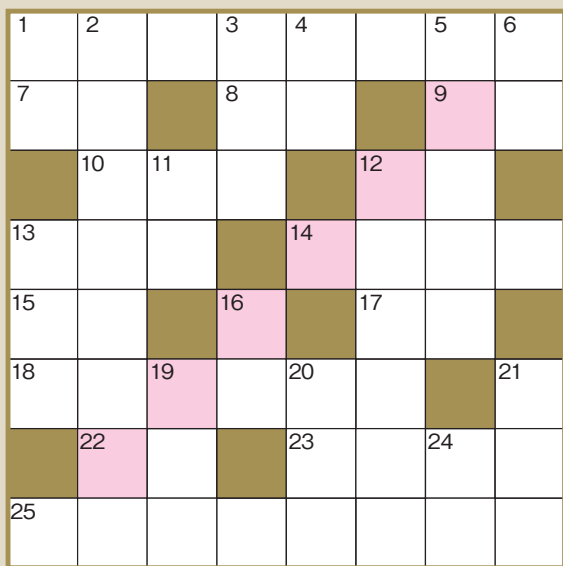
幸い愛媛大学の在学生に対しても法律相談部のOBとしてサポートさせて頂く機会を頂いていますので、今後は国内外問わず次世代の育成に貢献ができたと思います。



オフィスからはシドニーの名所であるハーバーブリッジとオペラハウスが見える

問題

クロスワードの色がついた部分の文字を並べ替え、愛媛県に関する人物の名前を教えてください。



(出題：H16卒・矢野彰大氏)

●ヨコのかぎ

- ① 凍ったままの土壌
- ⑦ 本の単位
- ⑧ 白と足すとピンクになる
- ⑨ 火にくべるために割る
- ⑩ グレードの違い
- ⑫ 英語で『親指』
- ⑬ 本の見出しを並べたもの
- ⑭ 温かいお湯
- ⑮ 誤情報
- ⑰ 寝てても起きてても見られる
- ⑱ 米二大政党の一つ
- ⑳ 斜め後ろに進めない将棋の駒
- ㉑ 短時間だけごまかす
- ㉒ この会報を作っている人

【解答】

●タテのかぎ

- ① 家畜やペットの食事
- ② ギャンブラーが目指す
- ③ 侍ジャパンの中継ぎ
- ④ さなぎが成虫に
- ⑤ プリティーダービー
- ⑥ 粘土を焼いた器
- ⑦ 当せん者を無作為に決定
- ⑧ 落語家の一派
- ⑨ 五月雨をあつめて早し
- ⑩ 〇川
- ⑪ 水分の多い白飯
- ⑫ 海外に行く
- ⑬ 有料コンテンツに出費
- ⑭ 鼻の上に角を持つ動物

応募方法

同封の応募ハガキに正解をご記入の上、**2023年11月30日までに**に本会あてお送りください。

賞品

図書カード1,000円分 25人

第26号 パズルの答え

正解：
マナベシュクロウ
(真鍋淑郎)

パズル等の解答にいただいた個人情報、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

ク	ジ	ユ	ウ	ク	リ	ハ	マ
ド	ア	イ	チ	ナ	イ	ル	
ウ	ン	ガ	ナ	ベ	ル		
シ	リ	キ	シ	キ			
ズ	イ	ユ	タ	ン	カ		
カ	カ	ク	ヨ	ン	ボ		
ウ	ス	ス	ミ	レ	ラ		

前回パズル当選者(敬称略)

解答者 110人中、正解者 106人

図書カード1,000円分 (25人)

(敬称略)

川本 太圓 (S40) 山根 淳一 (S53) 寺澤 徹哉 (S57)
濱口 和彦 (S57) 鈴鹿 基廣 (S58) 水元裕美子 (H01)
平野 嘉成 (H06) 石本 達也 (H09) 赤松 慶和 (H11)
河野 純子 (H12) 重延 友美 (H13) 宮内 真理 (H15)
向井正治郎 (H18) 川真田祐介 (H19) 港 紗有里 (H23)
新海あゆ美 (H24) 近藤 夏希 (H24) 田村 仁美 (H25)
折本 崇 (H26) 中村 菜月 (H28) 本宮 早季 (H29)
黒田 千夏 (H31) 渡部 稜也 (R03) 高田 由唯 (R03)
横山 燿大 (R04)

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は愛大今昔(41人)、2位は俳句コーナー(27人)、3位は研究室紹介(14人)、4位はCareer Report(13人)、5位はひめテラス(11人)、6位は退職教員(10人)、7位は青い地球交流記、提供講座報告(9人)、9位は卒業生から(8人)、10位はサークル紹介(7人)、以下、学部長・事務課長インタビュー(5)、パズル(4)、LINE(2)、卒業式・入学式(2) など

意見・感想

お褒めやお礼、励ましの言葉 (特に、コロナ禍での活動に関して) をたくさんいただきました。

- なかなか再訪できない愛媛の姿を見ることができてうれしいです。愛大正門の写真を見て変わりゆく風景にうれしくもさびしくもありました。
- 意見を寄せたら、その回答を誌面で見ることができて好感がもてた。
- 後輩や卒業生の方々が活躍されている姿が励みになります。これからも、会報の編集がんばってください。
- 笑顔の写真が多くて、みてて幸せな気持ちになりました。
- 寄付のプレゼントがうれしい。また続けてほしい。
- 編集後記に「80年近く生きてきて…」と書かれている方がいて、驚きました。勝手に、もっと若い世代の方たちが編集してくださっているんじゃないかと。ありがとうございます。
- クロスワードパズルで楽しく脳トレしています。
- クロスワード楽しみにしています。
- 俳句記事がとても面白いです。今回も勉強になりました。
- 毎号心待ちにしています。
- 「応援メッセージ」を見て元気をもらいました！

主なリクエスト

- 学生の様子が分かる記事を増やしてほしい。
- 4年間を過ごした楽しい学内、街、その他周辺の現状をいろいろ盛り込んで伝えてください。
- 退職された先生のその後も知りたいです。
- 卒業生がどういった方面で活躍されているのか気になるので、そういった記事を増やしてほしい。
- 文理学部19年(1953～1971)のアーカイブ記事をお願いしたい。
- できるだけ、各部活の実績、活動状況をたくさんお知らせいただけると幸いです。

【編集後記】

- 今年も同窓会報を会員の皆さんにお送りすることが出来てほっとしています。記事をご投稿頂いた会員の皆さん、取材活動や編集作業に携わっていただいた編集委員の皆さん、お手伝い頂いた学生アンバサダーの皆さん、本当に有難うございました。(編集委員長 畠中)
- 愛大生としての最後の学年時に所属する法文学部の活動に参加でき、嬉しく思っています。各々の進路等は多様ですが、法文学部で過ごした時間を今後も分かち合えるものとして同窓会報は非常に嬉しく思っています。(アンバサダー鳥井)
- 長い自粛生活から一転、同窓会アンバサダーの初仕事として会報誌を製作するお手伝いができて嬉しく思います。と言っても4回生のため早くも後半戦です。短い期間ですが精一杯頑張りたいと思います。(アンバサダー田村)
- 今回初めて同窓会報が出来上がるまでの過程に携わることができて光栄です。皆様に学生時代を思い出していただけると嬉しいです。(アンバサダー大野)
- コロナの規制が終わり、ふと思ったのが、全員がもれなくマスクをつけて撮っていた集合写真が最近になって貴重であることに気がきました。マスクなし生活楽しめよう。(アンバサダー清水)
- 今年はアンバサダー活動やら就活の下準備やらゼミの活動やらで、とても充実しています。今後もこの調子で活動・提案を行っていきたいです。(アンバサダー岡本)

発行 2023年9月
発行者 愛媛大学法文学部同窓会
編集 愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
事務局所在地 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 090-1002-6376
印刷 アマノ印刷